

50224

50224

教科書文庫

5
820
46-1948
20003 01647

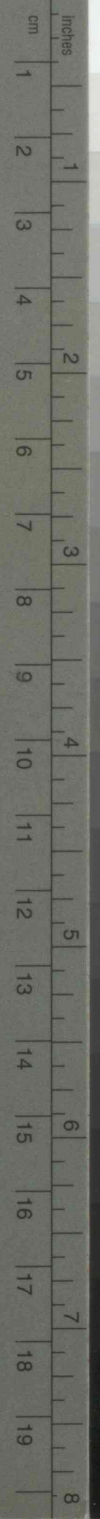
525
1950

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



375.9
Chu20
資料室

併教科書

漢

文

三

中等學校教科書株式會社



資料室

375.9
Chu 20

文部省檢定済
昭和23年6月29日 高等学校用

漢文

中等學校教科書株式會社





漢文三目次

序	說	一	陳情表	晉	李	密	三
上	篇	一	蓼莪(詩經)
善菁者莪(詩經)	...	九	慈烏夜啼	唐	白	居易	元
原毀	唐	韓愈	子產能為鄭國(左傳)
朋黨論	宋	歐陽脩	賈炭翁	唐	白	居易	元
賣柑者言	明	劉基	捕蛇者說	唐	柳宗元	四	...
召陵之盟(左傳)	秋聲賦	宋	歐陽脩	四	...
戰城南	漢	無名氏	枕中記	唐	沈既濟	吳	...
古詩十九首錄(首)	漢	無名氏	醉翁亭記	宋	歐陽脩	五	...
代悲白頭翁	唐	劉希夷	石壕吏	唐	杜甫	五	...
柳	清	李漁	弔古戰場文	唐	李華	五	...
種樹郭橐駝傳	唐	柳宗元	己亥歲	唐	曹松	五	...
柳子厚墓誌銘	韓	愈	折臂翁	唐	白居易	五	...
潮州韓文公廟碑	宋	蘇軾	前赤壁賦	宋	蘇軾	五	...
長恨歌	唐	白居易	後赤壁賦	宋	蘇軾	五	...
香山詩名	清	趙翼	月下獨酌	唐	李白	五	...
			中篇				
			天女(丹後風土記)

漢學之始(古事記)……………空
 以和爲貴(日本書紀)……………空
 遣隋使(日本書紀)……………空
 望不盡山(萬葉集)……………空
 梅花歌序(萬葉集)……………山上憶良 充
 古語拾遺序(古語拾遺)……………齋部廣成 七
 池亭記(本朝文粹)……………慶滋保胤 七
 菊河驛(東鑑)……………七
 下 籙 古典抄……………七
 兼 愛……………七
 非 攻……………七
 莊 子……………八
 逍遙遊……………八
 養生主……………八
 秋 水……………八
 荀 子……………八
 勸 學……………八

性 惡……………八
 韓非子……………八
 形名參同(主道)……………八
 以事實功(三柄)……………八
 說 林……………八



序 説

本卷を学ぶ諸子は、從來の制度によれば、高校の一年生諸君であり、しかも、今の制度によれば漢文を選択した学生中の最上級にあたるから、程度を高める方針をとった。上篇は前卷のごとく、古今の名作を選んだが、文藝的作品を主として扱って、支那文学の一斑を知らせることにした。

支那の文学は、詩經を中心とする歌謠にはじまったといつてよいが、古今を通じて、詩が支那文学の花である。その詩には、古体(古詩)・近体(絶句・律詩)の別がある。民謡に起原する五言・七言の古詩は漢末・魏晉の間に大成され、このころにはまた樂府と呼ばれた樂歌(樂器の伴奏によつて歌われる韻文)が流行した。樂府は、はじめ、漢の武帝の時、同名の役所で採用された歌であったが、このころには、すでに古詩と区別ができたねるものもでき、降つて、唐の白樂天にいたつて

は、樂歌の本質を失つた、新樂府というものを称え出した。近体詩は唐代に興り、これは、古詩と比較すれば、句数・字数・押韻等に著しい拘束のあるもので、毎句の字数は五字または七字で一篇を通したものが多し。宋以後は新しい形式の詩は起らず、たゞ宋詩の主流は、用字・内容等に、清新の氣分を出すことに努めたに過ぎない。

唐の中ごろ、樂府にかわつて、詞という樂歌が民間にあらわれ、宋代に文人によつて完成された。まもなく戲曲が民間に興り、元明に流行した。この戲曲は歌劇で、美辭麗句を並べ、構想には重点が置かれなかつた。これが旧劇である。

小説は神話傳説の敘述にはじまり、文語体の短篇小説は唐代に極盛となつたが、明清には、口語体の長篇小説がその極に達した。これらの創作の中で傑作の名品と傳えられているものは、主として文辭の美しいものである。現代劇・現代小説はまだ十分には發達していない。

支那文学においては、漢字漢語の特質に従って散文が文学的作品として評價される。古文は古い文体で、主として実用に供された。古代の道德的文学観が、藝術的文学観に轉じた六朝時代に、漢字漢語の特徴を最もよくあらわした駢文（へんぶん）というのが流行したが、唐代には古文が復興した。駢文は、韻文に近い散文ともいえるが、その前の漢代にはその源となった、散文化した韻文ともいえる辞賦と呼ばれる文体が盛んであった。

中華民国になって、思想革命とともに文学革命が叫ばれ、言文一致が主張された。口語文を白話文と呼ぶ。清朝から民國にかけて、公文手紙、新聞揭示廣告などに使われた文章は、口語と文語との中間のもので、わが國で特に支那時文と称した。

この巻では、白話文は扱わない。それは、諸子に現代語の知識がないからである。現代白話文はわれ／＼の日常語の中には、あまりはいっていないから、これを課することは、諸子の負担を増す

のみに過ぎないので、やめたのである。現代語は、

必要な人のみ、現地で学ぶのがよい。その時には知識階級の日常語の中にはいっている古語を理解する上でも、この数年間の漢文の学習は役に立つはずである。近代の戯曲小説も、口語がはいっているばかりでなく、理解しにくいから収録しない。駢文や代表的辞賦を入れないのも、それらが難解であるからであり、それゆえ、文学史的展開を示そうとしてもむずかしい。

中篇は日本文学の一面ともいうべき、漢字のみでつゞられた、わが上代から中世までの作品若干を採用した。見本的な、僅少の文例ではあるが、漢文がわが文章に影響した一端はわかるであろう。

このほか、仮名を交えた、國文の形の中にとけこんで行った漢字漢語の実例は、わざ／＼挙げなくてもよからう。

下篇は、いわゆる諸子の中から、今の生活に矛盾しない部分を抜き出して、古典抄と題した。諸

子の学派は各種であるから、諸子百家とも呼ばれるが、これは、正統な儒家以外に、一派の学説を立てたものの称である。その学説には型にはまらなかったような儒家には見られぬ自由さがある。注は特に参考書の少い新教材にや／＼詳しくした。

上 篇

○菁菁者莪 支那文学の祖ともいうべき詩経の中から、青年を教育して人材を作りあげる楽しさを歌った作品を取りあげて、巻首に置く。あわせて四章の中で、はじめの三章はくりかえしている。

○原毀 唐代に古文復興を主張した最初の人は韓愈である。その作品は、卷二の中にも入れておいたが、かれの得意の文体は議論文で、この一篇は、人は他人を責めるよりも、己の修養努力の不十分を責めるべきであり、人が他人から非難される原因は、怠と怠とにあることを訓えたもの。

○朋黨論 唐末に再び衰えた古文を宋代に復興して、永く通用の文体としたことには歐陽脩の努力

と、その背景をなした、かれの政治的地位が関係している。この篇は、政党的是非二面を論じ、小人が徒党を組むことの弊害を述べている。訓点にも少しはなれたであろうから、同じ文法の形式をとっている文においては、本課以降、少しずつ送仮名を省略する。

○賣柑者言 見かけばかりはりっぱで、食うことのできないみかんを賣る商人をなじって、逆に、官吏は形式にとらわれて、実がないことを指さされたことを述べた文。明初の擬古文の例。

○召陵之盟 敘事体の古文の一例。左傳は春秋左氏傳といい、春秋時代の編年史である春秋の史実を詳しく補った書物である。前漢の編纂物であるともいわれるが、それにしても、いわゆる先秦の文献によって作り上げたものであるといえる。内容は、当時の諸侯が、戦争を避ける一方法として用いた会盟の一例である。

○戰城南 漢末には、内戦外寇がつづいたから、

その悲惨な状況を描いた作品は多い。戦士の屍が鳥の餌となる、戦争は悲惨である。この詩は樂府体に属する。

○古詩十九首 昔は、五言古体の先祖と数えられた作品であるが、今日では後人の作といわれる。形式も内容も前漢中期以前の作としては見られない。一篇には七夕の故事が扱われている。他の一篇の中には、次課の作品に採られた句を含む。

○代悲白頭翁 唐詩選中、わが先人に愛誦された作品の一。唐人の作ではあるが、古詩の中に入れられる。かように、古・今の二体は、必ずしも作品の時代には限られない。少時を追懐する老人の心中を借りて、少年の努力を求める。

○柳 古文の作者ではない、清初の文人の軽妙な筆をしのぶ。韓・柳の文と、趣を異にすることがわかればよい。

○種樹郭橐駝傳 植木屋の言をかりて、官吏が規則にこだわって、民衆に干渉しすぎる弊を戒めた

肉親の間の愛情が文中にあふれている。

○蓼莪 親子の愛情の発露を、戦争が妨げたということを歌った古代の作品。詩経の中でも有名な一篇である。

○慈烏夜啼 親子の愛情を扱った唐代の作品。前課と内容を比較するのもよい。

○子産能爲鄭國 輿論は尊重すべきものであり、政治家が練習のつもりで政治をとることの害を述べている。子産は春秋時代の有名な政治家。

○賣炭翁 白樂天の新樂府の一例。かれの新樂府は、形式的には樂府といわれても樂歌ではなく、内容的には当時の社会の裏面を諷したことが、その特徴である。この篇は、官吏の内職が民衆に及ぼす害を歌っている。

○捕蛇者説 重税は人民にとっては毒蛇の害よりもはなはだしいことを皮肉った文。卷一の「苛政猛於虎」の文から思いついたものといわれる。

○秋聲賦 はじめて賦と題する文を扱ってみる。

擬古文。

○柳子厚墓誌銘 前課の作者の傳。同時代に並称された文人の間の友情をうかづいる。墓碑は地上に建てるもの、墓誌は墓の中に埋めるもの、文末に押韻の銘があるから、「銘」の字を加える。

○潮州韓文公廟碑 宋の古文の作家の筆に成る唐の古文作家の傳。人物批評もある。

○長恨歌 支那文学史上、好題材となった唐の玄宗と楊貴妃との風流韻事。元の梧桐雨、清の長生殿はこの事を扱った有名な戯曲である。

○香山詩名 白樂天の詩が、かれの生存中から有名であった事実及び理由を述べている。詩話というものは、宋以來盛んに作られた文藝評論の書で、詩人作品に関する隨筆の書である。甌北詩話は、清人の詩話中、わが國で古くから有名な書。

○陳情表 古來愛誦された名篇。このたびの戦争中には、官吏が上官の命令に服従しない例を示すものであるとて、教科書に收入を禁止されたが、

過去のわが漢学者が好んで朗誦した名文である。

○枕中記 はじめに述べたように、近世の戯曲小説は採れないので、唐代に流行した、文語体の短篇小説の中で、わが文学中にはしばしば見える「黄梁夢」の故事を書いたこの一篇をとる。

○醉翁亭記 過去の政治家の余暇の生活は、こんなものであった。卷二の柳宗元の「永州八記」の内容を思い出してみる。

○石壕吏 白樂天の新樂府までの内容は、文学史的に、社会詩人といわれる杜甫の影響であるといふ。杜が歌った社会の裏面をうかづ。徴兵が及ぼす家庭の悲劇を扱ったのである。

○弔古戰場文 江戸時代以來愛誦された名文。古戰場に臨み、戦争の悲劇を文につづったもの。

○己亥歲 戦争によって利益を得るものは將軍のみで、一般の兵士はその犠牲者となるということを歌った、わが國によく知られてきた名詩。

○折臂翁 社会詩人としての白樂天の作品の例。

徵兵忌避のためには、己の身をも痛み、老年になつて、その影響に苦しむ翁を歌つたもの、やはり新樂府の一。支那文学の特徴の一として、反戦的といふことを挙げる人があるが、この数課に挙げたように、かゝる作例は多い。

○前赤壁賦 ○後赤壁賦 文賦といわれる、散文的な賦。わが國で最も愛誦された作品の一。

○月下獨酌 支那文学には享樂的な一面もある。李白のこの方面の作品の一例。

中 篇

○天女 わが文学界に有名な羽衣傳説を風土記の中から抜いてみた。風土記は、元明天皇の勅命によつて、諸國で編纂した各國の地誌で、わが國最古の地誌であるが、今残っているものは、常陸・出雲・播磨・肥前・豊後の五種及び殘篇である。

その文はことごとく漢字でつゞられてはいるが、必ずしも漢文ではない。今、他書に引用されて傳わつてゐるいわゆる逸文ではあるが、内容的に親し

○望不盡山 現存最古の和歌集たる万葉集の原文を録し、漢字の音及び訓を借りて日本語を写した形式を示す。

○梅花歌序 万葉集所收の歌の首にある漢文の序の例。対句の多い六朝の文の影響をうかゞい見ることができると。王羲之の「蘭亭記」をまねたといわれる。

○古語拾遺序 わが國に固有の文字がなく、口傳によつて傳説が傳えられていたことが書かれてゐる。本書は、中臣氏と並んで、古くから朝廷の神事を掌つていた齋部氏の由緒を、大同年間に齋部廣成が編纂上奏したものである。

○池亭記 藤原明衡が編纂した本朝文粹は、嵯峨天皇の弘仁から、後一條天皇の長元までに作られた漢文を分類選録したもの。本篇に見ることく、六朝の文体の影響が深い、この構想は鎌倉時代の和文「方丈記」に深く影響しているといわれる。

○菊河驛 鎌倉・室町時代の日記の、漢字のみの

みのあるものとして、これを取りあげた。

○漢學之始 漢學傳來を古事記の文によつて示してみた。古事記は、天武天皇の仰せに従つて旧傳を諳誦していた稗田阿礼の言葉を、元明天皇の勅命を奉じて、太安万侶が編纂したもので、その文章は漢文の形式に國語の敘述法をまじえて作つたものといわれる。

○以和爲貴 推古天皇の御時に、聖德太子の作られた憲法十七條の中で、今日の社会に矛盾しない條文を採つて、文体にも内容にも、支那古典の影響が深いことを示す。はじめの一條は儒家思想たる中和を説き、次は法家の信賞必罰を述べ、末條は衆論に従うべきを規定している。日本書紀による。

○遣隋使 元正天皇の時、舍人親王及び太安万侶が勅を奉じて作つた上代から持統天皇にいたるまでの史書である日本書紀によつて、彼我の外交使節のはじめを記す。書紀の文は純粹の漢文に近い。

和漢混清文の例として、吾妻鏡の一節を抜き出した。この書は鎌倉幕府の日記で、編者は不明。内容は和文「東關紀行」の一節と対照するとよい。

下 篇

○墨子 先秦諸子中の一派たる墨家の学説を記した書。この学派の祖は墨翟（墨子）であると傳えられるが、その傳記は不明瞭である。かれの死後になつて、その中に三派が生じたといわれるが、あるいは、今日の本書はその三派のテキストが混じたものともいわれる。その主張は、兼愛といつて、人類は他人を無差別平等に愛することによつて幸福が得られるという点にあり、そこから非戦論も起り、節儉主義も生ずる。儒家にとつては、兼愛が似て非なる学説であり、節儉は儒家の主張する礼樂を偏重する弊害に本づいて起つた論であるから、儒家は、全く相違した学説である道家よりも、墨家の絶滅を計画し、漢の武帝が儒教を國教として以來は、特にその点に努力したため、学

統が絶えたのである。今、代表的議論を示す、兼愛・非攻の二篇を録した。

○莊子 道家に属する莊周（莊子）の学説の一端と、その寓言に富んだ文章の紹介。道家は儒家と相對する主張を有し、消極的な、個人的な傾向を有する。その祖は老子と云って、同名の書の著者であるといわれるが、この人の傳記には疑問が多い。莊子は老・莊と並び称せられ、同名のこの書は、かれの言動を記したものである。今、採つたものは、開卷第一であり、最も寓言に富んでいる逍遙遊の一部のほか、有名な養生主の一部、この二篇は莊子の中で、製作年代の早い内篇の中のもの、あるいは莊子の筆に成つた文章であるともいわれる。秋水は外篇に属するが、文章が特によいと批評される。概して、莊子は、議論体の古文の代表作であるといわれる。

○荀子 孟子は性善説を主張したが、戦國の末近く出た荀況のころになると、性善説は社会の実情

にはそわなくなつたので、同じく儒家に属していながらも、かれは人間の有する他の一面をとらえて、性悪説を称え、よつて教育の重要性を説くにいたり、礼を重んじた。礼という言葉は、儀式典

礼、倫理的な対人の礼法、社会的秩序の三義を有するが、荀子の礼は三者を含む。今、勸学の一部と性悪の一節とを採つた。

○韓非子 法治主義を主張する法家の流をくみ、しかも、荀子や老莊の学説を学んで、法家を集大成したのが韓非である。戦國のごく末に出て、言行一致、信賞必罰を主張した。かれの学説は今日の政治家にとつてもよい参考となる。形名参同はいわば言行一致であり、以事責功は信賞必罰である。説林は本書の一篇で、かれの説の実例を集めたものであるが、同様の内容を有する内外儲説篇中からも採録した。

上 篇

菁菁者莪（詩經）

菁菁者莪。	在彼中阿。	既見君子。	樂且有儀。
菁菁者莪。	在彼中沚。	既見君子。	我心則喜。
菁菁者莪。	在彼中陵。	既見君子。	錫我百朋。
汎汎楊舟。	載沈載浮。	既見君子。	我心則休。（小雅、彤弓）

原 毀

韓 愈

古之君子、其責己也重、以周、其待人也輕、以約。重以周、故不怠。輕以約、故人樂爲善。聞古之人有舜者、其爲人也、仁義人也。求

其所以爲舜者責於己曰彼人也予人也彼能是而我乃不能是。早夜以思去其不如舜者就其如舜者聞古之人有周公者其爲人也多才與藝人也求其所以爲周公者責於己曰彼人也予人也彼能是而我乃不能是。早夜以思去其不如周公者就其如周公者舜大聖人也後世無及焉。周公大聖人也後世無及焉。是人也乃曰不如舜不如周公吾之病也。是不亦責於己者重以周乎。其於人也曰彼人也能有是是足爲良人矣。能善是是足爲藝人矣。取其一不取其二卽其新不究其舊恐恐然惟懼其人之不得爲善之利一善易修也。一藝易能也。其於人也乃曰能有是是亦足矣。曰能善是是亦足矣。不亦待於人者輕以約乎。今之君子則不然其責人也詳其待己也廉。詳故

人難於爲善。廉故自取也少。己未有善曰我善是是亦足矣。己未有能曰我能是是亦足矣。外以欺於人內以欺於心未少有得而止矣。不亦待其身者已廉乎。其於人也曰彼雖能是其人不足稱也。彼雖善是其用不足稱也。舉其一不計其十究其舊不圖其新恐恐然惟懼其人之有聞也。是不亦責於人者已詳乎。夫是之謂不以衆人待其身而以聖人望於人。吾未見其尊己也。雖然爲是者有本有原。怠與忌之謂也。怠者不能修而忌者畏人修。吾常試之矣。嘗試語於衆曰某良士某良士其應者必其人之與也。不然則其所疎遠不與同其利者也。不然則其畏也不若是。強者必怒於言懦者必怒於色矣。又嘗語於衆曰某非良士某非良士其不應者必其人之與也。不然則其所疎

遠不與同其利者也。不然則其畏也不若是。強者必說於言，懦者必說於色矣。是故事修而謗興，德高而毀來。嗚呼！士之處此世而望名譽之光，道德之行難已。將有作於上者，得吾說而存之，其國家可幾而理歟。

朋黨論

歐陽脩

臣聞朋黨之說自古有之。惟幸人君辨其君子小人而已。大凡君子與君子以同道爲朋，小人與小人以同利爲朋。此自然之理也。然臣謂小人無朋，惟君子則有之。其故何哉？小人所好者，祿利也。所貪者，財貨也。當其同利之時，暫相黨引以爲朋者，僞也。及其見利則爭先，或利盡而交疎，甚者反相賊害，雖其兄弟

親戚不能相保。故臣謂小人無朋。其暫爲朋者，僞也。君子則不然。所守者道義，所行者忠信，所惜者名節。以之修身，則同道而相益；以之事國，則同心而共濟，終始如一。此君子之朋也。故爲人君者，但當退小人之僞朋，用君子之眞朋。則天下治矣。堯之時，小人共工、驩兜等四人爲一朋，君子八元、八愷十六人爲一朋。舜佐堯，退四凶，小人之朋，而進元愷，君子之朋，堯之天下大治。及舜自爲天子，而皋、夔、稷、契等二十二人並列于朝，更相稱美，更相推讓。凡二十二人爲一朋，而舜皆用之，天下亦大治。書曰：紂有臣億萬，惟億萬心。周有臣三千，惟一心。紂之時，億萬人各異心，可謂不爲朋矣。然紂以此亡國。周武王之臣三千人，爲一大朋，而周用以興。後漢獻帝時，盡取天下名士囚禁之，目爲

黨人及黃巾賊起漢室大亂後方悔悟盡解黨人而釋之然已無救矣唐之晚年漸起朋黨之論及昭宗時盡殺朝之名士咸投之黃河曰此輩清流可投濁流而唐遂亡矣夫前世之主能使人人異心不爲朋莫如紂能禁絕善人爲朋莫如漢獻帝能誅戮清流之朋莫如唐昭宗之世然皆亂亡其國更相稱美推讓而不自疑莫如舜之二十二臣舜亦不疑而皆用之然而後世不謂舜爲二十二人朋黨所欺而稱舜爲聰明之聖者以其能辨君子與小人也周武之世舉其國之臣三千人共爲一朋自古爲朋之多且大莫如周然周用此以興者善人雖多而不厭也夫興亡治亂之迹爲人君者可以鑒矣

賣柑者言

劉基

杭有賣果者善藏柑涉寒暑不潰出之燁然玉質而金色置于市買十倍人爭鬻之予買得其一剖之如有煙撲口鼻視其中則乾若敗絮予怪而問之曰若所市於人者將以實籩豆奉祭祀供賓客乎將銜外以惑愚瞽乎甚矣哉爲欺也賣者笑曰吾業是有年矣吾賴是以食吾軀吾售之人取之未嘗有言而獨不足子所乎世之爲欺者不寡矣而獨我也乎吾子未之思也今夫佩虎符坐臯比者泯泯乎干城之具也果能授孫吳之略耶峨大冠拖長紳者昂昂乎廟堂之器也果能建伊臯之業耶盜起而不知禦民困而不知救吏姦而不知禁法斁而不知理坐靡廩粟而不知恥觀其坐高堂騎大馬醉醇醲而飫肥鮮者

孰不巍巍乎可畏，赫赫乎可象也。又何往而不金玉其外，敗絮其中也哉。今子是之不察，而以察吾柑。予默然無以應。退而思其言，類東方滑稽之流。豈其憤世疾邪者耶。而託於柑以諷耶。

召陵之盟（左傳）

齊侯與蔡姬乘舟于囿，蕩公。公懼，變色，禁之，不可。公怒，歸之，未之絕也。蔡人嫁之。四年春，齊侯以諸侯之師侵蔡，蔡潰，遂伐楚。楚子使與師言曰：君處北海，寡人處南海，唯是風馬牛不相及也。不虞君之涉吾地也。何故？管仲對曰：昔召康公命我先君大公曰：五侯九伯，女實征之，以夾輔周室。賜我先君履，東至于海，

西至于河，南至于穆陵，北至于無棣。爾貢包茅不入，王祭不共，無以縮酒。寡人是徵。昭王南征而不復，寡人是問。對曰：貢之不入，寡君之罪也。敢不共給。昭王之不復，君其問諸水濱。師進次于陘。夏，楚子使屈完如師。師退，次于召陵。齊侯陳諸侯之師，與屈完乘而觀之。齊侯曰：豈不穀是爲？先君之好是繼。與不穀同好，如何？對曰：君惠微福，敝邑之社稷，辱收寡君，寡君之願也。齊侯曰：以此衆戰，誰能禦之？以此攻城，何城不克？對曰：君若以德綏諸侯，誰敢不服？君若以力，楚國方城以爲城，漢水以爲池。雖衆，無所用之。屈完及諸侯盟。（僖公三·四年）

戰城南死郭北。野死不葬烏可食。爲我謂烏。且爲客豪。
野死諒不葬。腐肉安能去子逃。水聲激激。蒲葦冥冥。
臯騎戰鬥死。鴛馬徘徊鳴。梁築室。何以南。何以北。
禾黍不穫君何食。願爲忠臣安可得。思子良臣。良臣誠
可思。朝行出攻。暮不夜歸。

古詩十九首錄二首

迢迢牽牛星。皎皎河漢女。織織擢素手。札札弄機杼。
終日不成章。泣涕零如雨。河漢清且淺。相去復幾許。
盈盈一水間。脈脈不得語。去者日已疎。來者日已親。
出郭門直視。但見丘與墳。

古墓犁爲田。松柏摧爲薪。白楊多悲風。蕭蕭愁殺人。
思還故里闔。欲歸道無因。

代悲白頭翁

劉希夷

洛陽城東桃李花。飛來飛去落誰家。洛陽女兒惜顏色。
行逢落花長歎息。今年花落顏色改。明年花開復誰在。
已見松柏摧爲薪。更聞桑田變成海。古人無復洛城東。
今人還對落花風。年年歲歲花相似。歲歲年年人不同。
寄言全盛紅顏子。應憐半死白頭翁。此翁白頭眞可憐。
伊昔紅顏美少年。公子王孫芳樹下。清歌妙舞落花前。
光祿池臺開錦繡。將軍樓閣畫神仙。一朝臥病無相識。

三春行樂在誰邊。
婉轉蛾眉能幾時。
須臾鶴髮亂如絲。
但看古來歌舞地。
惟有黃昏鳥雀悲。

柳

李

漁

柳貴乎垂。不垂則可無柳。柳條貴長。長則無嫵娜之致。徒垂無益也。此樹爲納蟬之所。諸鳥亦集。長夏不寂寞。得時聞鼓吹者。是樹皆有功。而高柳爲最。總之種樹非止娛目兼爲悅耳目。有時而不娛。以在臥榻之上也。耳則無時不悅。鳥聲之最可愛者。不在人之坐時。而偏在睡時。鳥音宜曉聽。人皆知之。而其獨宜於曉之故人。則未之察也。鳥之防弋無時不然。卯辰以後是人皆起。人起而鳥不自安矣。慮患之念一生。雖欲鳴而不得鳴。

亦必無好音。此其不宜於晝也。曉則是人未起。卽有起者。數亦寥寥。鳥無防患之心。自能畢其能事。且捫舌一夜。技癢於心。至此皆思調弄。所謂不鳴則已。一鳴驚人。是已。此其獨宜於曉也。莊子非魚能知魚之樂。笠翁非鳥能識鳥之情。凡屬鳴禽。皆當以予爲知己。種樹之樂。多端。然有不便於雅人者。亦有一節。枝葉繁冗。不漏月光。隔蟬娟。而不使見者。此其無心之過。不足責也。然匪樹木無心。人無心耳。使於種植之初。預防及此。留一線之餘天。以待月輪出沒。則晝夜均受其利矣。（笠翁偶集卷五）

種樹郭橐駝傳

柳宗元

郭橐駝。不知始何名。病僂。隆然伏行。有類橐駝者。故鄉人號之。

駝聞之曰甚善名我固當因捨其名亦自謂橐駝云其鄉曰豐樂鄉在長安西駝業種樹凡長安豪家富人爲觀游及賣果者皆爭迎取養視駝所種樹或移徙無不活且碩茂蚤實以蕃他植者雖窺伺傲慕莫能如也有問之對曰橐駝非能使木壽且孳也能順木之天以致其性焉爾凡植木之性其本欲舒其培欲平其土欲故其築欲密勿動勿慮去不復顧其蒔也若子其置也如棄則其天者全而其性得矣故吾不害其長而已非有能碩茂之也不抑耗其實而已非有能蚤而蕃之也他植者則不然根拳而土易其培之也若不過焉則不及焉苟有能反是者則又愛之太恩憂之太勤旦視而暮撫已去而復顧甚者爪其膚以驗其生枯搖其本以觀其疎密而木之性日以離矣

雖曰愛之其實害之雖曰憂之其實離之故不我若也吾又何能爲哉問者曰以子之道移之官理可乎駝曰我知種樹而已官理非吾業也然吾居鄉見長人者好煩其令若甚憐焉而卒以禍旦暮吏來而呼曰官命促爾耕勗爾植督爾穫蚤織而縷字而幼孩遂而雞豚鳴鼓而聚之擊木而召之吾小人輟殫饗以勞吏者且不得暇又何以蕃吾生而安吾性邪故病且怠若是則與吾業者其亦有類乎問者喜曰不亦善夫吾問養樹得養人術傳其事以爲官戒也

柳子厚墓誌銘

韓愈

子厚諱宗元七世祖慶爲拓跋魏侍中封濟陰侯曾伯祖爽爲

唐宰相與褚遂良韓瑗俱得罪武后死高宗朝皇考諱鎮以事
母棄太常博士求爲縣令江南其後以不能媚權貴失御史權
貴人死乃復拜侍御史號爲剛直所與游皆當世名人子厚少
精敏無不通達逮其父時雖少年已自成人能取進士第嶄然
見頭角衆謂柳氏有子矣其後以博學宏詞授集賢殿正字儁
傑廉悍議論證據今古出入經史百子踔厲風發率常屈其座
人名聲大振一時皆慕與之交諸公要人爭欲令出我門下交
口薦譽之貞元十九年由藍田尉拜監察御史順宗卽位拜禮
部員外郎遇用事者得罪例出爲刺史未至又例貶永州司馬
居閑益自刻苦務記覽爲詞章汎濫停蓄爲深博無涯涘而自
肆於山水間元和中嘗例召至京師又偕出爲刺史而子厚得

柳州既至歎曰是豈不足爲政邪因其土俗爲設教禁州人順
賴其俗以男女質錢約不時贖子本相侔則沒爲奴婢子厚與
設方計悉令贖歸其尤貧力不能者令書其傭足相當則使歸
其質觀察使下其法於他州比一歲免而歸者且千人衡湘以
南爲進士者皆以子厚爲師其經承子厚口講指畫爲文詞者
悉有法度可觀其召至京師而復爲刺史也中山劉夢得禹錫
亦在遣中當詣播州子厚泣曰播州非人所居而夢得親在堂
吾不忍夢得之窮無辭以白其大人且萬無母子俱往理請於
朝將拜疏願以柳易播雖重得罪死不恨遇有以夢得事白上
者夢得於是改刺連州嗚呼士窮乃見節義今夫平居里巷相
慕悅酒食遊戲相徵逐詡詡強笑語以相取下握手出肝肺相

示、指天日、涕泣、誓生死不相背負。眞若可信。一旦臨小利害、僅如毛髮比、反眼若不相識、落陷穽、不一引手救、反擠之、又下石焉者、皆是也。此宜禽獸夷狄所不忍爲、而其人自視以爲得計。聞子厚之風、亦可以少愧矣。子厚前時少年、勇於爲人、不自貴重、願藉謂功業可立就、故坐廢退。既退、又無相知、有氣力得位者、推挽故卒死於窮裔、材不爲世用、而道不行於時也。使子厚在臺省時、自持其身、已能如司馬刺史時、亦自不斥斥時、有人力能舉之、且必復用、不窮然。子厚斥不久、窮不極、雖有出於人其文學辭章、必不能自力、以致必傳於後、如今無疑也。雖使子厚得所願、爲將相於一時、以彼易此、孰得孰失、必有能辨之者。子厚以元和十四年十一月八日卒、年四十七。以十五年七月

十日、歸葬萬年、先人墓側。子厚有子男二人、長曰周六、始四歲。季曰周七、子厚卒乃生。女子二人、皆幼。其得歸葬也、費皆出觀察使河東裴君行立。行立有節概、重然諾、與子厚結交。子厚亦爲之盡。竟賴其力葬。子厚於萬年之墓者、舅弟盧遵、遵、涿人性謹慎、學問不厭。自子厚之斥、遵從而家焉。逮其死、不去。既往葬。子厚又將經紀其家。庶幾有始終者。銘曰、
是惟子厚之室、既固既安。以利其嗣人。

潮州韓文公廟碑

碑

賦

匹夫而爲百世師、一言而爲天下法、是皆有以參天地之化、關盛衰之運、其生也、有自來、其逝也、有所爲矣。故申、呂自嶽降、傅

說爲列星。古今所傳不可誣也。孟子曰：我善養吾浩然之氣。是氣也，寓於尋常之中，而塞乎天地之間。卒然遇之，王公失其貴，晉楚失其富，良平失其智，賁育失其勇，儀秦失其辯。是孰使之然哉？其必有不依形而立，不恃力而行，不待生而存，不隨死而亡者矣。故在天爲星辰，在地爲河嶽，幽則爲鬼神，而明則復爲人。此理之常，無足怪者。自東漢以來，道喪文弊，異端並起，歷唐貞觀、開元之盛，輔以房、杜、姚、宋，而不能救。獨韓文公起布衣，談笑而麾之，天下靡然從公，復歸於正。蓋三百年於此矣。文起八代之衰，而道濟天下之溺，忠犯人主之怒，而勇奪三軍之帥。此豈非參天地，關盛衰，浩然而獨存者乎？蓋嘗論天人之辨，以謂人無所不至，惟天不容僞。智可以欺王公，不可以欺豚魚；力可以

以得天下，不可以得匹夫匹婦之心。故公之精誠，能開衡山之雲，而不能回憲宗之惑；能馴鱷魚之暴，而不能弭皇甫鎛、李逢吉之謗；能信於南海之民，廟食百世，而不能使其身一日安於朝廷之上。蓋公之所能者，天也；其所不能者，人也。始潮人未知學，公命進士趙德爲之師。自是潮之士，皆篤於文行，延及齊民。至于今，號稱易治，信乎孔子之言：君子學道，則愛人，而小人學道，則易使也。潮人之事公也，飲食必祭，水旱疾疫，凡有求必禱焉。而廟在刺史公堂之後，民以出入爲艱，前守欲請諸朝，作新廟，不果。元祐五年，朝散郎王君滌來守是邦。凡所以養士治民者，一以公爲師。民既悅服，則出令曰：願新公廟者，聽民權趨之。卜地於州城之南七里，期年而廟成。或曰：公去國萬里，而謫于

潮不能一歲而歸。沒而有知其不眷戀于潮也。審矣。軾曰不然。公之神在天下者。如水之在地中。無所往而不在也。而潮人獨信之深。思之至。翫蒿悽愴。若或見之。譬如鑿井得泉。而曰水專在是。豈理也哉。元豐七年。詔封公昌黎伯。故榜曰昌黎伯韓文公之廟。潮人請書其事于石。因爲作詩以遺之。使歌以祀公。其辭曰。

公昔騎龍白雲鄉。手扶雲漢分天章。天孫爲織雲錦裳。飄然乘風來帝旁。下與濁世掃粃糠。西游咸池略扶桑。草木衣被昭回光。追逐李杜參翱翔。汗流籍湜走且僵。滅沒倒景不得望。作書詆佛譏君王。要觀南海窺衡湘。歷舜九疑弔英皇。祝融先驅海若藏。約東鮫鱈如驅羊。

鈞天無人帝悲傷。謳吟下招遣巫陽。燔牲雞卜羞我觴。於餐荔丹與蕉黃。公不少留我涕滂。翩然被髮下大荒。

長恨歌

白居易

漢皇重色思傾國。御宇多年求不得。楊家有女初長成。養在深閨人未識。天生麗質難自棄。一朝選在君王側。回眸一笑百媚生。六宮粉黛無顏色。春寒賜浴華清池。溫泉水滑洗凝脂。侍兒扶起嬌無力。始是新承恩澤時。雲鬢花顏金步搖。芙蓉帳暖度春宵。春宵苦短日高起。從此君王不早朝。承歡侍宴無閑暇。春從春遊夜專夜。後宮佳麗三千人。三千寵愛在一身。金屋粧成嬌侍夜。

玉樓宴罷醉和春。姊妹弟兄皆列土。可憐光彩生門戶。
遂令天下父母心。不重生男重生女。驪宮高處入青雲。
仙樂風飄處處聞。緩歌慢舞凝絲竹。盡日君王看不足。
漁陽鞀鼓動地來。驚破霓裳羽衣曲。九重城闕煙塵生。
千乘萬騎西南行。翠華搖搖行復止。西出都門百餘里。
六軍不發無奈何。宛轉蛾眉馬前死。花鈿委地無人收。
翠翹金雀玉搔頭。君王掩面救不得。回看血淚相和流。
黃埃散漫風蕭索。雲棧縈紆登劍閣。峨眉山下少人行。
旌旗無光日色薄。蜀江水碧蜀山青。聖主朝朝暮暮情。
行宮見月傷心色。夜雨聞鈴腸斷聲。天旋日轉回龍馭。
到此躊躇不能去。馬嵬坡下泥土中。不見玉顏空死處。

君臣相顧盡沾衣。東望都門信馬歸。歸來池苑皆依舊。
太液芙蓉未央柳。芙蓉如面柳如眉。對此如何不淚垂。
春風桃李花開夜。秋雨梧桐葉落時。西宮南苑多秋草。
宮葉滿階紅不掃。梨園弟子白髮新。椒房阿監青娥老。
夕殿螢飛思悄然。孤燈挑盡未成眠。遲遲鐘鼓初長夜。
耿耿星河欲曙天。鴛鴦瓦冷霜華重。翡翠衾寒誰與共。
悠悠生死別經年。魂魄不曾來入夢。臨邛道士鴻都客。
能以精誠致魂魄。爲感君王展轉思。遂教方士殷勤覓。
排雲馭氣奔加電。昇天入地求之徧。上窮碧落下黃泉。
兩處茫茫皆不見。忽聞海上有仙山。山在虛無縹緲間。
樓閣玲瓏五雲起。其中綽約多仙子。中有一人字玉真。

雪膚花貌參差是。金闕西廂叩玉局。轉教小玉報雙成。
 聞道漢家天子使。九華帳裏夢魂驚。攬衣推枕起徘徊。
 珠箔銀屏遷迤開。雲鬢半偏新睡覺。花冠不整下堂來。
 風吹仙袂飄飄舉。猶似霓裳羽衣舞。玉容寂寞淚闌干。
 梨花一枝春帶雨。含情凝睇謝君王。一別音容兩渺茫。
 昭陽殿裡恩愛絕。蓬萊宮中日月長。回頭下望人寰處。
 不見長安見塵霧。唯將舊物表深情。鈿合金釵寄將去。
 釵留一股合一扇。釵擘黃金合分鈿。但令心似金鈿堅。
 天上人間會相見。臨別殷勤重寄詞。詞中有誓兩心知。
 七月七日長生殿。夜半無人私語時。在天願作比翼鳥。
 在地願爲連理枝。天長地久有時盡。此恨綿綿無絕期。

香山詩名

趙翼

香山詩名最著。及身已風行海內。李謫仙後一人而已。觀其與
 微之書云。自長安至江西三四千里。凡鄉校佛寺逆旅行舟之
 中。往往有題其詩者。士庶僧道孀婦處女之口。往往有誦其詩
 者。漢南主人宴客。諸妓見香山。至指曰。此秦中吟長恨歌主到
 矣。微之序其集亦曰。觀寺郵堠牆壁之上。無不書王公妾婦牛
 童馬走之口。無不道。至於繕寫摹勒。街賣於市。又雞林賈人求
 市。頗切云。其國宰相每以百金換一篇。有甚僞者。亦能辨之。是
 古來詩人及身得名。未有如是之速且廣者。蓋其得名在長恨
 歌一篇。其事易傳。以易傳之事爲絕妙之詞。有聲有情。可歌可
 泣。文人學士既歎爲不可及。婦人女子亦喜聞而樂誦之。是以

不脛而走，傳遍天下。又有琵琶行一首助之。此卽無全集而二詩已自不朽。況又有三千八百四十首之工且多哉。（甌北詩話卷四）

陳情表

李密

臣密言，臣以險釁，夙遭閔凶。生孩六月，慈父見背，行年四歲，舅奪母志。祖母劉愍臣孤弱，躬親撫養。臣少多疾病，九歲不行，零丁孤苦，至于成立。既無叔伯，終鮮兄弟，門衰祚薄，晚有兒息。外無功彊近之親，內無應門五尺之僮。瑯瑯孑立，形影相弔。而劉夙嬰疾病，常在牀蓐。臣侍湯藥，未嘗廢離。逮奉聖朝，沐浴清化。前太守臣逵，察臣孝廉。後刺史臣榮，舉臣秀才。臣以供養無

主，辭不赴命。詔書特下，拜臣郎中，尋蒙國恩，除臣洗馬。猥以微賤，當侍東宮，非臣隕首所能。上報，臣具以表聞，辭不就職。詔書切峻，責臣逋慢。郡縣逼迫，催臣上道。州司臨門，急於星火。臣欲奉詔奔馳，則以劉病日篤，欲苟順私情，則告訴不許。臣之進退，實爲狼狽。伏惟聖朝以孝治天下，凡在故老，猶蒙矜卹。況臣孤苦，特爲尤甚。且臣少事僞朝，歷職郎署，本圖宦達，不矜名節。今臣亡國賤俘，至微至陋，過蒙拔擢，寵命優渥，豈敢盤桓有所希冀。但以劉日薄西山，氣息奄奄，人命危淺，朝不慮夕。臣無祖母，無以至今日；祖母無臣，無以終餘年。母孫二人，更相爲命，是以區區不能廢遠。臣密今年四十有四，祖母劉今年九十有六。是臣盡節於陛下之日長，報養劉之日短也。烏鳥私情，願乞終養。

臣之辛苦，非獨蜀之士，及二州牧伯所見，明知皇天后土實所共鑒。願陛下矜愍愚誠，聽臣微志。庶劉儁、佗、保、卒餘年。臣生當隕首，死當結草。臣不勝犬馬怖懼之情，謹拜表以聞。（文選卷十九）

蓼 莪（詩經）

蓼蓼者莪，匪莪伊蒿。哀哀父母，生我劬勞。
蓼蓼者莪，匪莪伊蔚。哀哀父母，生我勞瘁。
餅之罄矣，維罍之恥。鮮民之生，不如死之久矣。
無父何怙，無母何恃。出則銜恤，入則靡至。
父兮生我，母兮鞠我。拊我畜我，長我育我。
顧我復我，出入腹我。欲報之德，昊天罔極。（小雅、谷風）

慈烏夜啼

白居易

慈烏失其母，啞啞吐哀音。晝夜不飛去，經年守故林。
夜夜夜半啼，聞者為沾襟。聲中如告訴，未盡反哺心。
百鳥豈無母，爾獨哀怨深。應是母慈重，使爾悲不任。
昔有吳起者，母歿喪不臨。嗟哉斯徒輩，其心不如禽。
慈烏復慈烏，鳥中之會參。

子產能為鄭國（左傳）

鄭人游于鄉校，以論執政。然明謂子產曰：毀鄉校，如何？子產曰：

何爲。夫人朝夕退而游焉，以議執政之善否。其所善者，吾則行之；其所惡者，吾則改之。是吾師也。若之何？毀之。我聞忠善以損怨，不聞作威以防怨。豈不遽止？然猶防川。大決所犯，傷人必多。吾不克救也。不如小決使道，不如吾聞而藥之也。然明白蔑也。今而後知吾子之信可事也。小人實不才，若果行此，其鄭國實賴之。豈唯二三臣？仲尼聞是語也，曰：以是觀之，人謂子產不仁，吾不信也。子皮欲使尹何爲邑，子產曰：少，未知可否。子皮曰：愿吾愛之，不吾叛也。使夫往而學焉，夫亦愈知治矣。子產曰：不可。人之愛人，求利之也。今吾子愛人，則以政，猶未能操刀而使割也。其傷實多。子之愛人，傷之而已。其誰敢求愛於子？子於鄭國，棟也。棟折榱崩，僑將厭焉。誰敢不盡言？子有美錦，不使人學製

焉。大官大邑，身之所庇也。而使學者製焉，其爲美錦，不亦多乎？僑聞學而後入政，未聞以政學者也。若果行此，必有所害。譬如田獵，射御貫則能獲禽，若未嘗登車射御，則敗績厭覆是懼，何暇思獲？子皮曰：善哉！虎不敏，吾聞君子務知大者遠者，小人務知小者近者。我，小人也。衣服附在吾身，我知而慎之。大官大邑，所以庇身也。我遠而慢之，微子之言，吾不知也。他日，我曰：子爲鄭國，我爲吾家，以庇焉，其可也。今而後知不足。自今請雖吾家聽子而行。子產曰：人心之不同，如其面焉。吾豈敢謂子面如吾面乎？抑心所謂危，亦以告也。子皮以爲忠，故委政焉。子產是以能爲鄭國。（襄公三十一年）

賣炭翁 苦宮市也

白居易

賣炭翁。伐薪燒炭南山中。滿面塵灰煙火色。
 兩鬢蒼蒼十指黑。賣炭得錢何所營。身上衣裳口中食。
 可憐身上衣正單。心憂炭賤願天寒。夜來城外一尺雪。
 曉駕炭車輾冰轍。牛困人飢日已高。市南門外泥中歇。
 兩騎翩翩來是誰。黃衣使者白衫兒。手把文書口稱勅。
 迴車叱牛牽向北。一車炭重千餘斤。宮使驅將惜不得。
 半匹紅紗一丈綾。繫向牛頭充炭直。

捕蛇者說

柳宗元

永州之野產異蛇。黑質而白章。觸草木盡死。以齧人。無禦之者。

然得而腊之。以為餌。可以已大風。擊。瘵。癘。去死肌。殺三蟲。其
 始大醫以王命聚之。歲賦其二。募有能捕之者。當其租入。永之
 人。爭奔走焉。有蔣氏者。專其利。三世矣。問之。則曰。吾祖死於是。
 吾父死於是。今吾嗣為之十二年。幾死者數矣。言之貌。若甚戚
 者。余悲之。且曰。若毒之乎。余將告于莅事者。更若役。復若賦。則
 何如。蔣氏大戚。汪然出涕曰。君將哀而生之乎。則吾斯役之不
 幸。未若復吾賦。不幸之甚也。嚮吾不為斯役。則久已病矣。自吾
 氏三世居是鄉。積於今六十歲矣。而鄉鄰之生日蹙。殫其地之
 出。竭其廬之入。號呼而轉徙。饑渴而頓踣。觸風雨。犯寒暑。呼噓
 毒癘。往往而死者相藉也。曩與吾祖居者。今其室十無一焉。與
 吾父居者。今其室十無二三焉。與吾居十二年者。今其室十無

四五焉。非死則徙爾。而吾以捕蛇獨存。悍吏之來吾鄉，叫囂乎東西，隳突乎南北，嘩然而駭者，雖鷄狗不得寧焉。吾恂恂而起，視其缶，而吾蛇尚存，則弛然而臥。謹食之時而獻焉，退而甘食，其土之有，以盡吾齒。蓋一歲之犯死者二焉。其餘則熙熙而樂，豈若吾鄉鄰之旦旦有是哉。今雖死乎此，比吾鄉鄰之死，則已後矣。又安敢毒耶。余聞而愈悲。孔子曰：苛政猛於虎也。吾嘗疑乎是。今以蔣氏觀之，猶信。嗚呼！孰知賦斂之毒，有甚於是蛇者乎。故爲之說，以俟夫觀人風者得焉。

秋聲賦

歐陽脩

歐陽子方夜讀書，聞有聲自西南來者，悚然而聽之，曰：異哉！初

淅瀝以蕭颯，忽奔騰而砰湃。如波濤夜驚，風雨驟至。其觸於物也，鏗鏘錚錚，金鐵皆鳴。又如赴敵之兵，銜枚疾走，不聞號令，但聞人馬之行聲。余謂童子：此何聲也？汝出視之。童子曰：星月皎潔，明河在天。四無人聲，聲在樹間。余曰：噫嘻悲哉！此秋聲也。胡爲而來哉？蓋夫秋之爲狀也，其色慘淡，煙霏雲斂，其容清明，天高日晶，其氣慄冽，砭人肌骨，其意蕭條，山川寂寥。故其爲聲也，淒淒切切，呼號奮發，豐草綠縹，而爭茂，佳木蔥蘢，而可悅，草拂之而色變，木遭之而葉脫。其所以摧敗零落者，乃一氣之餘烈。夫秋，刑官也。於時爲陰，又兵象也。於行爲金，是謂天地之義氣，常以肅殺而爲心。大哉！天之於物，春生秋實，故其在樂也，商聲主西方之音，夷則爲七月之律，商傷也。物既老而悲傷，夷戮也。

物過盛而當殺。嗟夫，草木無情，有時飄零。人爲動物，惟物之靈。百憂感其心，萬事勞其形，有動乎中，必搖其精，而沉思其力之所不能及，憂其智之所不能行，宜其渥然丹者爲槁木，黝然黑者爲星星，奈何！非金石之質，欲與草木而爭榮，念誰爲之戕賊，亦何恨乎！秋聲童子莫對，垂頭而睡。但聞四壁蟲聲唧唧，如助余之歎息。

枕中記

沈既濟

開元七年，道士有呂翁者，得神仙術，行邯鄲道中，息邸舍，攝帽弛帶，隱囊而坐。俄見旅中少年，乃盧生也。衣短褐，乘青駒，將適于田，亦止於邸中，與翁共席而坐，言笑殊暢。久之，盧生顧其衣

裝敝褻，乃長歎息曰：大丈夫生世不諧，困如是也。翁曰：觀子形體，無苦無恙，談諧方適，而歎其困者，何也？生曰：吾此苟生耳。何適之謂？翁曰：此不謂適，而何謂適？答曰：士之生世，當建功樹名，出將入相，列鼎而食，選聲而聽，使族益昌，而家益肥，然後可以言適乎？吾嘗志於學，富於游藝，自惟當年，青紫可拾。今已適壯，猶勤畎畝，非困而何？言訖，而目昏思寐。時主人方蒸黍，翁乃探囊中，枕以授之，曰：子枕吾枕，當令子榮適如志。其枕青甕，而竅其兩端，生俛首就之，見其竅漸大明，朗乃舉身而入，遂至其家。數月，娶清河崔氏女，女容甚麗，生資愈厚，生大悅。由是衣裝服馭，日益鮮盛。明年，舉進士，登第，釋褐，祕校，應制，轉渭南尉。俄遷監察御史，轉起居舍人，知制誥。三載，出典同州，遷陝牧。生性好

土巧自陝西鑿河八十里以濟不通邦人利之刻石紀德移節
汴州領河南道採訪使徵爲京兆尹是歲神武皇帝方事戎狄
恢宏土宇會吐蕃攻陷瓜沙而節度使王君奭新被殺河湟震
動帝思將帥之才遂除生御史中丞河西道節度大破戎虜斬
首七千級開地九百里築三大城以遮要害邊人立石於居延
山以頌之歸朝冊勳恩禮極盛轉吏部侍郎遷戶部尚書兼御
史大夫時望清重羣情翕習大爲時宰所忌以飛語中之貶爲
端州刺史三年徵爲常侍未幾拜同中書門下平章事與蕭中
令嵩裴侍中光庭同執大政十餘年嘉謨密命一日三接獻替
啓沃號爲賢相同列害之復誣與邊將交結所圖不軌下制獄
府吏引徒至其門急收之生惶駭不測謂妻子曰吾家山東有

良田五頃足以禦寒餒何苦求祿而今及此思衣短褐乘青駒
行邯鄲道上不可得也引刃自刎其妻救之獲免其懼者皆死
獨生爲中官保之減罪死投驪州數年帝知寃復追爲中書令
封燕國公恩旨殊異生五子曰儉曰傳曰位曰倜曰倚皆有才
器儉進士登第爲考功員外傳爲侍御史位爲大常丞倜爲萬
年尉倚最賢年二十八爲左襄其姻媾皆天下望族有孫十餘
人兩竄荒徼再登台鉉出入中外徊翔臺閣五十餘年崇盛赫
奕性頗奢蕩甚好佚樂後庭聲色皆第一綺麗前後賜良田甲
第佳人名馬不可勝數後年漸衰邁屢乞骸骨不許病中人候
問相踵於道名醫上藥無不至焉將歿上疏曰臣本山東諸生
以田圃爲娛偶逢聖運得列官叙過蒙殊獎特秩鴻私出擁節

旌入昇台輔。周旋中外。綿歷歲時。有忝天恩。無裨聖化。負乘貽
愆。履薄增憂。日懼一日。不知老至。今年逾八十。位極三事。鍾漏
並歇。筋骸俱耄。彌留沈頓。待時益盡。顧無成效。上答休明。空負
深恩。永辭聖代。無任感戀之至。謹奉表陳謝。詔曰。卿以俊德。作
朕元輔。出擁藩翰。入贊雍熙。昇平二紀。實卿所賴。比嬰疾疹。日
謂痊平。豈斯沈痼。良用憫惻。今令驃騎大將軍高力士就第候
省。其勉加鍼石。爲予自愛。猶冀無妄。期於有瘳。是夕薨。盧生欠
伸而悟。見其身方偃於邸舍。呂翁坐其傍。主人蒸黍未熟。觸類
如故。生蹶然而興曰。豈其夢寐也。翁謂生曰。人生之適。亦如是
矣。生撫然良久。謝曰。夫寵辱之道。窮達之運。得喪之理。死生之
情。盡知之矣。此先生所以窒吾欲也。敢不受教。稽首再拜而去。

(文苑英華卷八百八十三)

醉翁亭記

歐陽脩

環滁皆山也。其西南諸峯林壑尤美。望之蔚然而深秀者。琅琊
也。山行六七里。漸聞水聲。潺潺而瀉出于兩峯之間者。醴泉也。
峯回路轉。有亭翼然臨于泉上者。醉翁亭也。作亭者誰。山之僧
智僊也。名之者誰。太守自謂也。太守與客來飲于此。飲少輒醉。
而年又最高。故自號曰醉翁也。醉翁之意不在酒。在于山水之
間也。山水之樂。得之心。而寓之酒也。若夫日出而林霏開。雲歸
而巖穴暝。晦明變化者。山間之朝暮也。野芳發而幽香。佳木秀
而繁陰。風霜高潔。水清而石出者。山間之四時也。朝而往。暮而

歸。四時之景不同，而樂亦無窮也。至於負者歌于塗，行者休于樹，前者呼，後者應，僂僂提攜，往來而不絕者，滁人遊也。臨谿而漁，谿深而魚肥，釀泉爲酒，泉香而酒冽，山肴野蔌，雜然而前陳者，太守宴也。宴酣之樂，非絲非竹。射者中，弈者勝，觥籌交錯，起坐而誼譁者，衆賓懽也。蒼顏白髮，頽然乎其間者，太守醉也。已而夕陽在山，人影散亂，太守歸，而賓客從也。樹林陰翳，鳴聲上下，遊人去而禽鳥樂也。然而禽鳥知山林之樂，而不知人之樂。人知從太守遊而樂，不知太守之樂其樂也。醉能同其樂，醒能述以文者，太守也。太守謂誰？廬陵歐陽脩也。

石壕吏

杜甫

暮投石壕村。	有吏夜捉人。	老翁踰牆走。	老婦出門看。
吏呼一何怒。	婦啼一何苦。	聽婦前致詞。	三男鄴城戍。
一男附書至。	二男新戰死。	存者且偷生。	死者長已矣。
室中更無人。	惟有乳下孫。	孫有母未去。	出入無完裙。
老嫗力雖衰。	請從吏夜歸。	急應河陽役。	猶得備晨炊。
夜久語聲絕。	如聞泣幽咽。	天明登前途。	獨與老翁別。

弔古戰場文

李華

浩浩乎平沙無垠，復不見人。河水縈帶，羣山糾紛。黯兮慘悴，風悲日曛。蓬斷草枯，凜若霜晨。鳥飛不下，獸挺亡羣。亭長告余曰：此古戰場也。常覆三軍，往往鬼哭。天陰則聞傷心哉。秦歟漢歟，

將近代歟。吾聞夫齊魏徭戍荆韓召募萬里奔走連年暴露沙
草晨牧河冰夜渡地闊天長不知歸路寄身鋒刃膈臆誰訴秦
漢而還多事四夷中州耗斲無世無之古稱戎夏不抗王師文
教失宣武臣用奇奇兵有異於仁義王道迂闊而莫爲嗚呼噫
嘻吾想夫北風振漠胡兵伺便主將驕敵期門受戰野豎旌旗
川回組練法重心駭威尊命賤利鏃穿骨驚沙入面主客相搏
山川震眩聲拆江河勢崩雷電至若窮陰凝閉凜冽海隅積雪
沒脛堅冰在鬚鷲鳥休巢征馬踟躕繪續無溫墮指裂膚當此
苦寒天假強胡憑陵殺氣以相翦屠徑截輜重橫攻士卒都尉
新降將軍復沒屍填巨港之岸血滿長城之窟無貴無賤同爲
枯骨可勝言哉鼓衰兮力盡矢竭兮弦絕白刃交兮寶刀折兩

軍蹙兮生死決降矣哉終身夷狄戰矣哉骨暴沙磧鳥無聲兮
山寂寂夜正長兮風淅淅魂魄結兮天沉沉鬼神聚兮雲羃羃
日光寒兮草短月色苦兮霜白傷心慘目有如是耶吾聞之牧
用趙卒大破林胡開地千里遁逃匈奴漢傾天下財殫力痛任
人而已其在多乎周逐獫狁北至太原既城朔方全師而還飲
至策勳和樂且閑穆穆棣棣君臣之間秦起長城竟海爲關荼
毒生靈萬里朱殷漢擊匈奴雖得陰山枕骸遍野功不補患蒼
蒼烝民誰無父母提携捧負畏其不壽誰無兄弟如足如手誰
無夫婦如賓如友生也何恩殺之何咎其存其沒家莫聞知人
或有言將信將疑悵悵心且寢寐見之布奠傾觴哭望天涯天
地爲愁草木淒悲弔祭不至精魂無依必有凶年人其流離嗚

呼噫嘻、時耶命耶、從古如斯、爲之奈何、守在四夷。

己亥歲

曹松

澤國江山入戰圖、生民何計樂樵蘇、憑君莫話封侯事、一將功成萬骨枯。

折臂翁戒邊功也

白居易

新豐老翁八十八、頭鬢眉鬚皆似雪、玄孫扶向店前行、左臂憑肩右臂折、問翁臂折來幾年、兼問致折何因緣、翁云貫屬新豐縣、生逢聖代無征戰、慣聽梨園歌管聲、不識旗槍與弓箭、無何天寶大徵兵、戶有三丁點一丁、

點得駢將何處去、五月萬里雲南行、聞道雲南有瀘水、椒花落時瘴煙起、大軍徒涉水如湯、未過十人二三死、村南村北哭聲哀、兒別爺孃夫別妻、皆云前後征蠻者、千萬人行無一回、是時翁年二十四、兵部牒中有名字、夜深不敢使人知、偷將大石槌折臂、張弓簸旗俱不堪、從茲使免征雲南、骨碎筋傷非不苦、且圖揀退歸鄉土、此臂折來六十年、一肢雖廢一身全、至今風雨陰寒夜、直到天明痛不眠、痛不眠終不悔、且喜老身今獨在、不然當時瀘水頭、身死魂孤骨不收、應作雲南望鄉鬼、萬人冢上哭啾啾、老人言君聽取、君不聞開元宰相宋開府、不賞邊功防黷武、又不聞天寶宰相楊國忠、

欲求恩幸立邊功。邊功未立生人怨。請問新豐折臂翁。

前赤壁賦

蘇軾

壬戌之秋、七月既望、蘇子與客泛舟遊於赤壁之下。清風徐來、水波不興。舉酒屬客、誦明月之詩、歌窈窕之章。少焉、月出於東山之上、徘徊於斗牛之間。白露橫江、水光接天。縱一葦之所、如凌萬頃之茫然。浩浩乎如馮虛御風、而不知其所止。飄飄乎如遺世獨立、羽化而登仙。於是、飲酒樂甚、扣舷而歌之。歌曰：桂櫂兮蘭槳、擊空明兮泝流光。渺渺兮予懷、望美人兮天一方。客有吹洞簫者、倚歌而和之。其聲嗚嗚然、如怨如慕、如泣如訴。餘音嫋嫋、不絕如縷。舞幽壑之潛蛟、泣孤舟之嫠婦。蘇子愀然正襟、

危坐而問客曰：何爲其然也。客曰：月明星稀、烏鵲南飛、此非曹孟德之詩乎。西望夏口、東望武昌、山川相繆、鬱乎蒼蒼、此非孟德之困於周郎者乎。方其破荊州、下江陵、順流而東也、舳艫千里、旌旗蔽空、酺酒臨江、橫槊賦詩。固一世之雄也、而今安在哉。況吾與子、漁樵於江渚之上、侶魚鰕、而友麋鹿。駕一葉之扁舟、舉匏樽、以相屬、寄蜉蝣於天地、渺滄海之一粟。哀吾生之須臾、羨長江之無窮、挾飛仙以遨遊、抱明月而長終。知不可乎驟得、託遺響於悲風。蘇子曰：客亦知夫水與月乎。逝者如斯、而未嘗往也。盈虛者如彼、而卒莫消長也。蓋將自其變者而觀之、則天地曾不能以一瞬、自其不變者而觀之、則物與我皆無盡也。而又何羨乎。且夫天地之間、物各有主。苟非吾之所有、雖一毫而

莫取。惟江上之清風，與山間之明月，耳得之而爲聲，目遇之而成色，取之無禁，用之不竭。是造物者之無盡藏也。而吾與子之所共適。客喜而笑，洗盞更酌。肴核既盡，杯盤狼藉。相與枕藉乎舟中，不知東方之既白。

後赤壁賦

蘇

軾

是歲十月之望，步自雪堂，將歸于臨臯。二客從予，過黃泥之坂。霜露既降，木葉盡脫。人影在地，仰見明月。顧而樂之，行歌相答。已而歎曰：有客無酒，有酒無肴。月白風清，如此良夜何？客曰：今者薄暮，舉網得魚。巨口細鱗，狀如松江之鱸。顧安所得酒乎？歸而謀諸婦。婦曰：我有斗酒，藏之久矣。以待子不時之須。於是携

酒與魚，復游於赤壁之下。江流有聲，斷岸千尺。山高月小，水落石出。曾日月之幾何，而江山不可復識矣。予乃攝衣而上，履巖，披蒙茸，踞虎豹，登虯龍，攀栖鶻之危巢，俯馮夷之幽宮。蓋二客不能從焉。劃然長嘯，草木震動，山鳴谷應，風起水湧。予亦悄然而悲，肅然而恐，凜乎其不可留也。反而登舟，放乎中流，聽其所止而休焉。時夜將半，四顧寂寥，適有孤鶴橫江，東來翅如車輪，玄裳縞衣，戛然長鳴，掠予舟而西也。須臾客去，予亦就睡。夢一道士，羽衣蹁躚，過臨臯之下，揖予而言曰：赤壁之遊樂乎？問其姓名，俛而不答。嗚呼噫嘻，我知之矣。疇昔之夜，飛鳴而過我者，非子也耶？道士顧笑，予亦驚悟，開戶視之，不見其處。

月下獨酌

李

白

花間一壺酒，獨酌無相親。
 月既不解飲，影徒隨我身。
 我歌月徘徊，我舞影凌亂。
 永結無情遊，相期邈雲漢。

舉盃邀明月，對影成三人。
 暫伴月將影，行樂須及春。
 醒時同交歡，醉後各分散。

中篇

天女

丹後國丹波郡郡家西北隅方有比治里。此里比治山頂有井。其名云真井。今既成沼。此井天女八人降來浴水。于時有老夫婦。其名曰和奈佐老夫和奈佐老婦。此老等至此井而竊取藏天女一人衣裳。即有衣裳者皆天飛上。但無衣裳。女娘一人留。即身隱水而獨懷愧居。爰老夫謂天女曰。吾請天女娘。汝為兒。天女答曰。妾獨留人間。何敢不從。請許衣裳。老夫曰。天女娘何存欺心。

天女云、凡天人之志、以信爲本、何多疑心、不許衣裳。老夫答曰、多疑無信、率土之常、故以此心爲不許耳。遂許卽相副、而往宅、卽相住十餘歲。爰天女善爲釀酒、飲一盃、吉萬病悉除之。其一杯之直財積、車送之。于時其家豐土形富、故云土形里。此自中間至于今時、便云比治里。後老夫婦等謂天女曰、汝非吾兒、暫借住耳。宜早出去。於是天女仰天哭、慟俯地哀吟、卽謂老夫等曰、妾非以私意來。老夫等所願、何發厭惡之心、忽存出去之痛。老夫增發、願去。天女流淚、微退門外、謂鄉人曰、久沈人間、不得還天。復無親故、不知由所居、吾何哉、何哉。拭

淚嗟嘆、仰天歌曰、阿麻能波良、布理佐兼美、禮婆加須美、多智何弊治麻止比天、由久弊志良受母、遂退去而。至荒鹽村。卽謂村人等云、思老夫老婦之意、我心無異。荒鹽者、仍云比沼里、荒鹽村。亦至丹波里、哭木村、據槻木而哭。故云哭木村。復至竹野郡船木里、奈具村、卽謂村人等云、此處我心成奈具志久。古事不善者、奈具志。乃留居此村。斯所謂竹野郡奈具社、坐豐宇賀能賣命也。(纂訂古風

土記逸文)

漢學之始

百濟國主照古王、以牡馬壹疋、牝馬壹疋、附阿知吉師、以貢上。亦貢上橫刀及大鏡。又科賜百濟國、若有賢人者、貢上。故受命以貢上人、名和邇吉師、卽論語十卷、千字文一卷、并十一卷、附是人卽貢進。(古事記卷中)

以和爲貴(憲法十七條)

以和爲貴、無忤爲宗。人皆有黨、亦少達者。是以不順君父、乍違于隣里。然上和下睦、諧於論事、則事理自通、何事不成。第一

信是義本。每事有信。其善惡成敗、心在于信。君臣共信、

何事不成。君臣無信、萬事悉敗。第九

明察功過、賞罰必當。日者賞不在功、罰不在罪。執事群卿、宜明賞罰。第十一

夫事不可獨斷。必與衆宜論。小事是輕、不可必衆。唯逮論大事、若疑有失、故與衆相辨。則辭得理。第十七

遣隋使

推古天皇十五年秋七月、戊申朔、庚戌、大禮小野臣妹子遣於大唐、以鞍作福利爲通事。十六年夏四月、小野臣妹子、至自大唐。唐國號妹子臣、

曰蘇因高。卽大唐使人裴世清下客十二人從。妹子臣
至於筑紫。遣難波吉士雄成召大唐客裴世清等爲唐
客更造新館於難波高麗館之上。六月壬寅朔丙辰客
等泊于難波津。是日以飭船卅艘迎客等于江口安置
新館。於是中臣宮地連烏麻呂大河內直糠手船史
王平爲掌客。(日本書紀卷二十二)

望不盡山

山部 赤人

天地之分時從。神左備而高貴。寸駿河有布士能高嶺
乎。天原振放見者。度日之陰毛隱比。照月乃光毛不見。

白雲母。伊去波伐加利。時自久曾。雪者落家留。語告言
繼將往。不盡能高嶺者。

反歌

田兒之浦從。打出而見者。眞白衣。不盡能高嶺。爾雪者
零家留。(萬葉集卷三)

梅花歌序

山上 憶良

天平二年正月十三日。萃于帥老之宅。申宴會也。于時
初春令月。氣淑風和。梅披鏡前之粉。蘭薰珮後之香。加
以曙嶺移雲。松掛蘿而傾蓋。夕岫結霧。鳥封穀而迷林。

庭舞新蝶空歸故鴈於是蓋天坐地促膝飛觴忘言一
室之裏開衿煙霞之外淡然自放快然自足若非翰苑
何以據情請紀落梅之篇古今夫何異矣宜賦園梅聊
成短詠(萬葉集卷五)

古語拾遺序

齋部廣成

蓋聞上古之世未有文字貴賤老少口口相傳前言往
行存而不忘書契以來不好談古浮華競興還嗤舊老
遂使人歷世而彌新事逐代而變改顧問故實靡識根
源國史家牒雖載其略一二委曲猶有所遺愚臣不言

恐絕無傳幸蒙召問欲據蓄憤故錄舊說敢以上聞云
爾(古語拾遺)

池亭記

慶滋保胤

予二十餘年以來歷見東西二京西京人家漸稀殆幾
幽墟矣人者有去無來屋者有壞無造其無處移徙無
憚賤貧者是居或樂幽隱亡命當入山歸田者不去若
自蓄財貨有心奔營者雖一日不得住之往年有一東
閣華堂朱戶竹樹泉石誠是象外之勝地也主人有事
左轉屋舍有火自燒其門客之居近地者數十家相率

而去。其後主人雖歸而不重修。子孫雖多而不永住。荆棘鎖門，狐狸安穴。夫如此者，天之亡西京，非人之罪明也。

予六條以北，初卜荒地，築四垣，開一門。上擇蕭相國窮僻之地，下慕仲長統清曠之居。地方都廬十有餘畝，就隆爲小山，遇窪穿小池。池西置小堂，安彌陀。池東開小閣，納書籍。池北起低屋，著妻子。凡屋舍十之四，池水九之三，菜園八之二，芹田七之一。其外綠松島，白沙汀，紅鯉，白鷺，小橋，小船，平生所好，盡在其中。況乎春有東岸之柳，細煙嫋娜。夏有北戶之竹，清風颯然。秋有西窓之

月，可以披書。冬有南簷之日，可以炙背。予行年漸垂，五旬，適有小宅，蝸安其舍，虱樂其縫，鷄住小枝，不望鄧林之大。蛙在曲井，不知滄海之寬。家主職雖在柱下，心如住山中。官爵者任運命，天之工均矣。壽夭者付乾坤，丘之禱久焉。不樂人之爲風鵬，不樂人之爲霧豹。不要屈膝折腰，而求媚於王侯將相。又不要避言避色，而刊蹤於深山幽谷。在朝身暫隨王事，在家心永歸佛那。予出有青草之袍，位雖卑，職尙貴。入有白紵之被，暄於春，潔於雪。盥漱之初，參西堂，念彌陀，讀法華。飯食之後，入東閣，開書卷，逢古賢。夫漢文皇帝爲異代之主，以好儉約，

安_レ人_レ民_上也。唐白樂天爲_レ異代之師、以_レ長詩句、歸_レ佛法也。
晉朝七賢爲_レ異代之友、以_レ身在朝、志在隱也。予遇_レ賢主、
遇_レ賢師、遇_レ賢友、一日有三遇、一生爲_レ三樂。近代人世之
事、無_レ一可戀、人之爲_レ師者、先貴先富、不以_レ文次、不如無_レ
師。人之爲_レ友者、以_レ勢以利、不以_レ淡交、不如無_レ友。予杜_レ門、
閉_レ戶、獨吟獨詠。若有_レ餘興者、與_レ兒童乘_レ小船、叩_レ舷、鼓_レ棹。
若有_レ餘暇者、呼_レ僮僕、入_レ後園、以_レ糞以_レ灌。我愛_レ吾宅、不知_レ
其_レ他。應和以來、世人好起_レ豐屋峻宇、殆至_レ山節畫稅、其
費且_レ巨千萬、其住纔_レ二三年。古人云、造者不_レ居、誠哉斯
言。予及_レ暮齒、開_レ起小宅、取_レ諸身量、于_レ分、誠奢盛也。上畏_レ

于_レ天、下愧_レ于_レ人。亦猶行人之造_レ旅宿、老蠶之成_レ獨繭矣。
其住幾時乎。嗟呼聖賢之造_レ家也、不_レ費_レ民、不_レ勞_レ鬼、以_レ仁
義爲_レ棟梁、以_レ禮法爲_レ柱礎、以_レ道德爲_レ門戶、以_レ慈愛爲_レ垣
墻、以_レ好儉爲_レ家事、以_レ積善爲_レ家資。居_レ其中者、火不能_レ燒、
風不能_レ倒、妖不得_レ呈、災不得_レ來、鬼神不可_レ窺、盜賊不可_レ
犯。其家自富、其主是壽、官位永保、子孫相承。可不_レ慎乎。
天元五載、孟冬十月、家主保胤、自作_レ自書。(本朝文粹卷十二)

菊河驛

〔承久三年七月〕十日壬辰、中御門入道前中納言宗行、

相伴小山新左衛門尉朝長下向今日宿于遠江國菊
河驛終夜不能眠獨向閑窓讀誦法華經又有書付旅
店之柱事。

昔南陽縣菊水汲下流而延齡。

今東海道菊河宿西岸而失命。(東鑑卷二十五)

下
論

墨子

兼愛

聖人以治天下爲事者也。必知亂之所自起焉，能治之。不知亂之所自起，則不能治。譬之如醫之攻人之疾者然。必知疾之所自起焉，能攻之。不知疾之所自起，則弗能攻。治亂者何獨不然。必知亂之所自起焉，能治之。不知亂之所自起，則弗能治。聖人以治天下爲事者也。不可不察亂之所自起。當察亂何自起，起不相愛。臣子之不孝，君父，所謂亂也。子自愛不愛父，故虧父而自利。弟自愛不愛兄，故虧兄而自利。臣自愛不愛君，故虧君而自利。此所謂亂也。雖父之不慈子，兄之不慈弟，君之不慈臣，此亦天下之所謂亂也。父自愛也不愛子，故虧子而自利。兄自愛

也不愛弟。故虧弟而自利。君自愛也不愛臣。故虧臣而自利。是何也。皆起不相愛。雖至天下之爲盜賊者亦然。盜愛其室。不愛其異室。故竊異室以利其室。賊愛其身。不愛人。故賊人以利其身。此何也。皆起不相愛。雖至大夫之相亂家。諸侯之相攻國者亦然。大夫各愛其家。不愛異家。故亂異家以利其家。諸侯各愛其國。不愛異國。故攻異國以利其國。天下之亂物。具此而已矣。察此何自起。皆起不相愛。若使天下兼相愛。愛人若愛其身。猶有不孝者乎。視父兄與君若其身。惡施不孝。猶有不慈者乎。視子弟與臣若其身。惡施不慈。故不孝不慈亡有。猶有盜賊乎。故視人之室若其室。誰竊。視人身若其身。誰賊。故盜賊亡有。猶有大夫之相亂家。諸侯之相攻國者乎。視人家若其家。誰亂。視人國若其國。誰攻。故大夫之相亂家。諸侯之相攻國者亡有。若使天下兼相愛。國與國不相攻。家與家不相亂。盜賊無有。君臣父子皆能孝慈。若此則天下治。故聖人以治天下爲事者。惡得不禁惡而勸愛。故天下兼相愛則治。相惡則亂。故子墨子曰。不可以不勸愛人者此也。

非攻

今有一人。入人園圃。竊其桃李。衆聞則非之。上爲政者得則罰之。此何也。以其虧人自利也。至攘人犬豕雞豚者。其不義。又甚入人園圃竊桃李。是何故也。以虧人愈多。苟虧人愈多。其不仁。茲甚。罪益厚。至入人闈廐。取人馬牛者。其不義。又甚攘人犬豕雞豚。此何故也。以其虧人愈多。苟虧人愈多。其不仁。茲甚。罪益厚。至殺不辜人也。地其衣裘。取戈劍者。其不義。又甚入人闈廐。取人馬牛。此何故也。以其虧人愈多。苟虧人愈多。其不仁。茲甚矣。罪益厚。當此天下之君子。皆知而非之。謂之不義。今至大爲不義。攻國。則弗知非。從而譽之。謂之義。此可謂知義與不義之

別乎。殺一人謂之不義。必有一死罪矣。若以此說往。殺十人。十重不義。必有十死罪矣。殺百人。百重不義。必有百死罪矣。當此天下之君子。皆知而非之。謂之不義。今至大爲不義。攻國則弗知非。從而譽之。謂之義。情不知其不義也。故書其言以遺後世。若知其不義也。夫奚說書其不義。以遺後世哉。今有人於此。少見黑曰黑。多見黑曰白。則必以此人爲不知白黑之辨矣。少嘗苦曰苦。多嘗苦曰甘。則必以此人爲不知甘苦之辨矣。今少爲非。則知而非之。大爲非。攻國則不知非。從而譽之。謂之義。此可謂知義與不義之辨乎。是以知天下之君子辨義與不義之亂也。

莊子

逍遙遊

北冥有魚。其名爲鯤。鯤之大。不知其幾千里也。化而爲鳥。其名爲鵬。鵬之背。不知其幾千里也。怒而飛。其翼若垂天之雲。是鳥也。海運則將徙於南冥。南冥者。天池也。齊諧者。志怪者也。諧之言曰。鵬之徙於南冥也。水擊三千里。搏扶搖而上者九萬里。去以六月息者也。野馬也。塵埃也。生物之以息相吹也。天之蒼蒼。其正色邪。其遠而無所至極邪。其視下也。亦若是則已矣。且夫水之積也不厚。則負大舟也無力。覆杯水於坳堂之上。則芥爲之舟。置杯焉則膠。水淺而舟大也。風之積也不厚。則其負大翼也無力。故九萬里。則風斯在下矣。而後乃今培風。背負青天。而莫之夭闕者。而後乃今將圖南。蜩與鸞鳩笑之曰。我決起而飛。搶榆枋。時則不至。而控於地而已矣。奚以之九萬里。而南爲。適莽蒼者。三澨而反。腹猶果然。適百里者。宿春糧。適千里者。三月聚糧。之二蟲又何知。小

知不及大知。小年不及大年。奚以知其然也。朝菌不知晦朔。蟪蛄不知春秋。此小年也。楚之南有冥靈者。以五百歲爲春。五百歲爲秋。上古有大椿者。以八千歲爲春。八千歲爲秋。而彭祖乃今以久特聞。衆人匹之。不亦悲乎。湯之問棘也。是已。窮髮之北。有冥海者。天池也。有魚焉。其廣數千里。未有知其脩者。其名爲鯨。有鳥焉。其名爲鵬。背若泰山。翼若垂天之雲。搏扶搖。羊角而上者九萬里。絕雲氣。負青天。然後圖南。且適南冥也。斥鴳笑之曰。彼且奚適也。我騰躍而上。不過數仞而下。翱翔蓬蒿之間。此亦飛之至也。而彼且奚適也。此小大之辨也。故夫知效一官。行比一鄉。德合一君。而徵一國者。其自視也。亦若此矣。而宋榮子猶然笑之。且舉世而譽之。而不加勸。舉世而非之。而不加沮。定乎內外之分。辨乎榮辱之境。斯已矣。彼其於世。未數數然也。雖然。猶有未樹也。夫列子御風而行。泠然善也。旬有五日而後反。彼於致福者。未數數然也。此雖

免乎行。猶有所待者也。若夫乘天地之正。而御六氣之辨。以遊無窮者。彼且惡乎待哉。故曰。至人無己。神人無功。聖人無名。堯讓天下於許由。曰。日月出矣。而燭火不息。其於光也。不亦難乎。時雨降矣。而猶浸灌。其於澤也。不亦勞乎。夫子立而天下治。而我猶尸之。吾自視缺然。請致天下。許由曰。子治天下。天下既已治也。而我猶代子。吾將爲名乎。名者實之賓也。吾將爲賓乎。鷦鷯巢於深林。不過一枝。偃鼠飲河。不過滿腹。歸休乎君。予無所用天下爲。庖人雖不治庖。尸祝不越樽俎而代之矣。肩吾問於連叔曰。吾聞言於接輿。大而無當。往而不返。吾驚怖其言。猶河漢而無極也。大有遯庭。不近人情焉。連叔曰。其言謂何哉。曰。藐姑射之山。有神人居焉。肌膚若冰雪。淖約若處子。不食五穀。吸風飲露。乘雲氣。御飛龍。而遊乎四海之外。其神凝。使物不疵癘。而年穀熟。吾以是狂而不信也。連叔曰。然。瞽者無以與乎文章之觀。聾者無以與乎鐘鼓之聲。

豈唯形骸有聾盲哉。夫知亦有之。是其言也。猶時女也。之人也。之德也。將旁礴萬物以爲一。世斷乎亂。孰敝敝焉。以天下爲事之人也。物莫之傷。大浸稽天而不溺。大旱金石流。土山焦而不熱。是其塵垢粃糠。將猶陶鑄堯舜者也。孰肯以物爲事。宋人資章甫而適諸越。越人斷髮文身。無所用之。堯治天下之民。平海內之政。往見四子。藐姑射之山。汾水之陽。窅然喪其天下焉。

養生主

吾生也有涯。而知也無涯。以有涯隨無涯。殆已。已而爲知者殆而已矣。爲善無近名。爲惡無近刑。緣督以爲經。可以保身。可以全生。可以養親。可以盡年。庖丁爲文惠君解牛。手之所觸。肩之所倚。足之所履。膝之所踣。砉然騞然。奏刀騞然。莫不中音。合於桑林之舞。乃中經首之會。文惠

君曰。善哉。技蓋至此乎。庖丁釋刀對曰。臣之所好者道也。進乎技矣。始臣之解牛之時。所見無非牛者。三年之後。未嘗見全牛也。方今之時。臣以神遇。而不以目視。官知止。而神欲行。依乎天理。批大郤。導大窾。因其固然。技經肯綮之未嘗。而況大軀乎。良庖歲更刀。割也。族庖月更刀。折也。今臣之刀十九年矣。所解數千牛矣。而刀刃若新發於硯。彼節者有間。而刀刃者無厚。以無厚入有間。恢恢乎其於遊刃。必有餘地矣。是以十九年而刀刃若新發於硯。雖然。每至於族。吾見其難爲。怵然爲戒。視爲止行。爲運動。刀甚微。謦然已解。如土委地。提刀而立。爲之四顧。爲之躊躇滿志。善刀而藏之。文惠君曰。善哉。吾聞庖丁之言。得養生焉。

秋水

秋水時至。百川灌河。涇流之大。兩涘渚崖之間。不辨牛馬。於是焉河伯

欣然自喜。以天下之美爲盡在己。順流而東。行至於北海。東面而視。不見水端。於是焉。河伯始旋其面目。望洋向若而歎曰。野語有之曰。聞道百。以爲莫己若者。我之謂也。且夫我嘗聞少仲尼之聞。而輕伯夷之義者。始吾弗信。今我睹子之難窮也。吾非至於子之門則殆矣。吾長見笑於大方之家。北海若曰。井竈不可以語於海者。拘於虛也。夏蟲不可以語於冰者。篤於時也。曲士不可以語於道者。束於教也。今爾出於崖涘。觀於大海。乃知爾醜。爾將可與語大理矣。天下之水。莫大於海。萬川歸之。不知何時止而不盈。尾閭泄之。不知何時已而不虛。春秋不變。水旱不知。此其過江河之流。不可爲量數。而我未嘗以此自多者。自以比形於天地。而受氣於陰陽。吾在於天地之間。猶小石小木之在大山也。方存乎見少。又奚以自多。計四海之在天地之間也。不似壘空之在大澤乎。計中國之在海內。不似稊米之在太倉乎。號物之數。謂之萬。人處一

焉。人卒九州。穀食之所生。舟車之所通。人處一焉。此其比萬物也。不似毫末之在於馬體乎。五帝之所連。三王之所爭。仁人之所憂。任士之所勞。盡此矣。伯夷辭之以爲名。仲尼語之以爲博。此其自多也。不似爾向之自多於水乎。河伯曰。然則吾大天地而小毫末。可乎。北海若曰。否。夫物量無窮。時無止。分無常。終始無故。是故大知觀於遠近。故小而不寡。大而不多。知量無窮。證舜今故。故遙而不悶。撥而不跋。知時無止。察乎盈虛。故得而不喜。失而不憂。知分之無常也。明乎坦途。故生而不說。死而不禍。知終始之不可故也。計人之所知。不若其所不知。其生之時。不若未生之時。以其至小。求窮其至大之域。是故迷亂而不能自得也。由此觀之。又何以知毫末之足以定。至細之倪。又何以知天地之足以窮至大之域。

莊子釣於濮水。楚王使大夫二人往先焉。曰。願以竟內累矣。莊子持竿

不顧。曰：吾聞楚有神龜，死已三千歲矣。王巾笥而藏之廟堂之上。此龜者，寧其死爲留骨而貴乎？寧其生而曳尾於塗中乎？二大夫曰：寧生而曳尾塗中。莊子曰：往矣，吾將曳尾於塗中。

莊子與惠子遊於濠梁之上。莊子曰：儻魚出遊從容，是魚樂也。惠子曰：子非魚，安知魚之樂？莊子曰：子非我，安知我不知魚之樂？惠子曰：我非子，固不知子矣。子固非魚也。子之不知魚之樂，全矣。莊子曰：請循其本。子曰：女安知魚之樂？云者，既已知吾知之而問我，我知之濠上也。

荀子

勸學

君子曰：學不可以已。青取之乎藍，而青於藍；冰水爲之，而寒乎水。木直

中繩，輅以爲輪，其曲中規。雖有槁暴，不復挺者，輅使之然也。故木受繩則直，金就礪則利。君子博學而日參省乎己，則知明而行無過矣。故不登高山，不知天之高也；不臨深谿，不知地之厚也；不聞先王之遺言，不知學問之大也。子越夷貉之子，生而同聲，長而異俗，教使之然也。詩曰：嗟爾君子，無恆安息。靖共爾位，好是正直，神之聽之，介爾景福。神莫大於化道，福莫長於無禍。吾嘗終日而思矣，不如須臾之所學也。吾嘗跂而望矣，不如登高之博見也。登高而招，臂非加長也；而見者遠。順風而呼，聲非加疾也；而聞者彰。假輿馬者，非利足也；而致千里。假舟楫者，非能水也；而絕江河。君子生非異也，善假於物也。南方有鳥焉，名曰蒙鳩，以羽爲巢，而編之以髮，繫之葦苳。風至苳折，卵破子死。巢非不完也，所繫者然也。西方有木焉，名曰射干，莖長四寸，生於高山之上，而臨百仞之淵。木莖非能長也，所立者然也。蓬生麻中，不扶而直；蘭槐之根，是爲

正。其漸之滌。君子不近。庶人不服。其質非不美也。所漸者然也。故君子居必擇鄉。遊必就士。所以防邪僻而近中正也。

性 惡

人之性惡。其善者偽也。今人之性。生而有好利焉。順是。故爭奪生。而辭讓亡焉。生而有疾惡焉。順是。故殘賊生。而忠信亡焉。生而有耳目之欲。有好聲色焉。順是。故淫亂生。而禮義文理亡焉。然則從人之性。順人情。必出於爭奪。合於犯分亂理。而歸於暴。故必將有師法之化。禮義之道。然後出於辭讓。合於文理。而歸於治。用此觀之。然則人之性惡明矣。其善者偽也。

韓非子

形名參同

道者萬物之始。是非之紀也。是以明君守始以知萬物之源。治紀以知善敗之端。故虛靜以待。令名自命也。令事自定也。虛則知實之情。靜則知動者正。有言者自爲名。有事者自爲形。形名參同。君乃無事焉。歸之其情。故曰。君無見其所欲。君見其所欲。臣將自彫琢。君無見其意。君見其意。臣將自表異。故曰。去好去惡。臣乃見素。去舊去智。臣乃自備。故有智而不以慮。使萬物知其處。有賢而不以行。觀臣下之所因。有勇而不以怒。使羣臣盡其武。是故去智而有明。去賢而有功。去勇而有強。羣臣守職。百官有常。因能而使之。是謂習常。故曰。寂乎其無位而處。謬乎其得其所。明君無爲於上。羣臣竦懼於下。明君之道。使智者盡其慮。而君因以斷事。故君不窮於智。賢者效其材。君因而任之。故君不窮於能。有功則君有其賢。有過則臣任其罪。故君不窮於名。是故不賢而爲賢者。

師不智而爲智者正。臣有其勞，君有其成功，此之謂賢主之經也。（主道）

以事實功

人主將欲禁姦，則審合刑名者，言不異事也。爲人臣者，陳事而言。君以其言授之事，專以其事實其功。功當其事，事當其言，則賞。功不當其事，事不當其言，則罰。故羣臣其言大而功小者，則罰。非罰小功也。罰功不當名也。羣臣其言小而功大者，亦罰。非不說於大功也。以爲不當名也，害甚於有大功。故罰。昔者韓昭侯醉而寢，典冠者見君之寒也，故加衣於君之上。覺寢而說，問左右曰：誰加衣者？左右對曰：典冠。君因兼罪典衣與典冠，其罪典衣以爲失其事也，其罪典冠以爲越其職也。非不惡寒也。以爲侵官之害，甚於寒。故明主之畜臣，臣不得越官而有功，不得陳言而不當。越官則死，不當則罪。守業其官，所言者貞也。則羣臣不得

朋黨相爲矣。（二柄）

說林

○有獻不死之藥於荆王者，謁者操之以入。中射之士問曰：可食乎？曰：可。因奪而食之。王大怒，使人殺中射之士。中射之士使人說王曰：臣問謁者曰：可食。臣故食之。是臣無罪，而罪在謁者也。且客獻不死之藥，臣食之而王殺臣，是死藥也。是客欺王也。夫殺無罪之臣，而明人之欺王也，不如釋臣。王乃不殺。（說林上）

○龐恭與太子質於邯鄲。謂魏王曰：今一人言市有虎，王信之乎？曰：不信。二人言市有虎，王信之乎？曰：寡人信之。龐恭曰：夫市之無虎也明矣。然而三人言而成虎。今邯鄲之去魏也遠於市，議臣者過於三人。願王察之。龐恭從邯鄲反，竟不得見。

(内備説上)

○客有爲齊王畫者。齊王問曰、畫孰最難者。曰、犬馬難。孰易者。曰、鬼魅最易。夫犬馬人所知也。且暮罄於前、不可類之。故難。鬼神無形者、不罄於前、故易之也。(外備説左上)

○楚厲王有警爲鼓。以與百姓爲戍。飲酒醉過而擊之也。民大驚。使人止曰、吾醉而與左右戲、過擊之也。民皆罷。居數月有警、擊鼓而民不赴。乃更令明號、而民信之。(外備説左上)

○韓宣子曰、吾馬菽粟多矣。甚懼何也。寡人患之。周市對曰、使騶盡粟以食、雖求無肥不可得也。名爲多與之、其實少。雖求無懼亦不可得也。主不審其情實、坐而患之、馬猶不肥也。(外備説左下)

附 篇

○菁菁者莪 △菁菁 繁リタルサマ。△中阿 阿中ノ義。阿ハ大陵。△泚 小渚。△載沈載浮 君子ヲ見ザル前ハ心定マラザルヲイフ。

○原毀 △即其新不究其舊 他人ノ新シキ善行ヲ買ヒテ、舊惡ヲ追究セザルナリ。△未少有得而止 矣 一生ノ間、一善一藝モ得ザルナリ。△舉其一不計其十 一惡ヲ口ニシテ、多クノ善行ヲホメザルナリ。△衆人 一般凡人。

○朋黨論 △八元八愷 元ハ善ナリ、愷ハ和ナリ。八人ノ善人ト八人ノ有德者ト。昔、高辛氏(帝馨)ノ子孫ニ伯奮・仲堪・叔獻・季仲・伯虎・仲熊・叔豹・季狸、高陽氏(帝顓頊)ノ子孫ニ蒼舒・隤敷・檮戡・大臨・龍降・庭堅・仲容・叔達アリ、天下ノ民、八元八愷トヨブ。堯舉グル能ハズ、舜舉用セシコト、文公十八年ノ左傳ニ見ユ。△四凶 帝鴻氏(黃帝)ノ不才ノ子渾敦(驩兜)、少皞氏

ノ不才ノ子窮奇(共工)、顓頊氏ノ不才ノ子檮杌(鯀)、緡雲氏ノ不才ノ子饕餮。同書ニ見ユ。△書曰 泰誓ニ見ユ。「紂」ヲ「受」、「周」ヲ「予」ニ作ル。△黃巾 後漢ノ靈帝ノ時、鉅鹿ノ張角、妖術ヲ以テ徒ニ授ケ、遂ニ叛ス。其徒皆黃巾ヲ披リテ標識トナセリ。△唐之晚年云々 穆宗ノ時、李德裕、李宗閔ヲ退ケ、文宗ノ時ニ德裕ハ地方ニ逐ハレ、牛僧孺入りテ相トナリテ、宗閔ト結ブ。武宗ノ時ニハ德裕相トナリテ、牛等左遷、宣宗ノ時德裕逐ハレ、カクテ三人ノ死スルマデ黨争續キタリ。△及昭宗時云々 昭宣帝(哀帝)ノ天祐二年、朱全忠ハ裴樞・獨孤損・陸扈等ヲ滑州白馬驛ニ殺ス。ソノ部下李振、進士ノ試ニ應ジ、度々落第セシ私怨ニヨリテ朱ニイッテ曰ク「此輩自謂清流、宜投黃河、永爲濁流。」ト。朱笑ツテ從ヒシコト舊五代史ノ李ノ本傳ニ見ユ。昭宗ニカクルハ誤。○賣柑者言 △劉基 明初ノ文人。字ハ伯溫。御史中丞兼太史令。誠意伯ニ封セラレ、文成ト諡セ

ラル。誠意伯集ノ外、郁離子等ノ著アリ。△杭州。浙江省ノ杭州。△虎符。虎ノ形ヲナセルワリフ。銅虎符。△阜比。虎皮。△洸洸。武キ貌。△孫吳。孫武・吳起、先秦ノ兵法家。△伊臯。伊尹・臯陶。△靡。原文「靡」ニ作レド、解リ易クヌルタメニ改ム。△東方生。漢ノ東方朔。滑稽ヲ善クシ、諷刺ニ巧ナリ。

○召陵之盟。△召陵。今ノ河南省鄆城縣ノ東。△左傳。魯ヲ中心トシテ記セル春秋ノ本文ガ簡單ナルヲ以テ、史實ヲ中心ニ之ヲ詳シクシタル書。舊傳ニテハ、戰國ノ時ニ左丘明之ヲ作ルト。前漢末ノ僞書トイフ人アリ。恐ラク、前漢ノ中葉ニ、古文學者が古記ヲ編次シテ成シモノナラン。敘事體古文ノ模範タリ。△齊侯。桓公。△蔡姬。齊侯ノ夫人。蔡國ノ出。△蕩公。戲ニ公ノ身體ヲユスブリシナリ。△蔡。姬姓。侯爵。今ノ河南省内ノ小國、後、安徽省内ニ遷リシモ、楚ニ亡ボサル。△召康公。周公且ト共ニ幼主成王ヲ輔ケン召公奭。

陽侯王根ハ光祿大夫トナリテ、池中ニ臺ヲ設ク。

△將軍樓閣云々。後漢ノ大將軍梁冀邸宅ヲ造リ、

雲氣仙靈ノ圖ヲ描カシム。

○柳。△李漁。清ノ康熙頃ノ文人。號ハ笠翁、蘭谿ノ人。戯曲小説ノ作家。△捫舌。詩經大雅抑ノ篇ニ「莫捫朕舌」ノ毛傳ニ「捫持也」ト。△不鳴則已一鳴驚人。史記滑稽列傳ノ文。△莊子知魚之樂。秋水篇ニ出ヅ。下篇參照。△笠翁偶集。書名。六卷。今、種植部、竹木ノ條ヨリ採ル。

○種樹郭橐駝傳。△種樹。植木職。樹ハ植ウルナリ。△橐駝。駝。コノ職人ノ綽名。△根拳。木ノ根ノカママリテノビザルコト。

○柳子厚墓誌銘。△拓跋魏。後魏・北魏。元魏。皆三國ノ魏ト分ツタメノ稱。△侍中。官名。天子ノ侍從。△濟陰。郡名。今山東省定陶縣ノ西北。△曾伯祖。曾祖ノ兄。△褚遂良。太宗・高宗ニ仕ヘ、尙書右僕射ニ進ミ、河南郡公ニ封ゼラル。則天武氏后トナリ、愛州刺史ニ貶セラレテ憂死ス。

△我先君太公。太公望呂尙。△五侯九伯。古注ニ公侯伯子男ノ五等ノ諸侯並ビニ九州ノ伯ト解ス。一ニイフ、五・九ハ一ヨリ九ニ至ル中數及ビ終數ヲアゲ、侯・伯ハ五等ノ中ノ二ヲ擧ゲテ代表セシム。要スルニ天下ノ諸侯ノ國ヲイフト。△履。フム所ノ土地。領地。△穆陵。今ノ山東省臨朐縣ノ南。△無棣。今ノ山東省ノ北部ニ同名ノ縣アリ。△昭王。周ノ昭王。南巡シテ漢水ニ溺死セリ。△陘。山名。河南省新鄭縣ノ西南ニアリ。△楚子成王。△方城。山名。河南省葉縣ノ南ニアリ。○戰城南。△豪。豪擧ナリ。態度ノ迫ラザルヲイフ。△梟騎。タケトシキ騎兵。△梁築室云々。棟梁ノ材アル大人物ガ、何故ニ城南郭北ニ轉戦スルニ至ルカトナリ。

○古詩十九首。△脈脈。視ツムル貌。△愁殺。殺ニハ意ナシ。

○代悲白頭翁。△劉希夷。字ハ廷芝。初唐ノ人。△松柏云々。前課參照。△光祿池臺云々。漢ノ曲

書道ニ於テモ名アリ。△韓瑗。侍中ヨリ、振州刺

史ニ左遷、後殺サル。△太常博士。太常寺ノ官吏、

五禮ノ儀式ヲ辨ズルヲ掌ル。△縣令江南。宣城ノ

令トナル。△御史。殿中侍御史。殿中ニアリテ、

非法ヲ監察ス。△逮其父時。父ノ生存中。△博學

宏詞。官吏登用試験ノ科目、博學能文ノ士ヲ試験

スルモノ。△集賢殿。書籍ノ蒐集校輯ヲナス處。

△正字。官名。文字ヲ校正スル職タルヲ以テ名アリ。

△貞元。德宗ノ年號(七八五―八〇四)。△藍

田。陝西省長安ノ東南ニ同名ノ縣アリ。△監察御

史。官吏ヲ查察スル役。△元和。憲宗ノ年號(八

〇六一―二〇)。△柳州。今ノ廣西省馬平縣。△觀

察使。初、按察使、後觀察處置使トイフ。治下ノ

善惡ヲ察ス。中葉以後、節度使之ヲ兼ス。△衡湘

衡山湘水。△劉夢得。名ハ禹錫、中山ノ人。文

人ナリ。△播州。今ノ貴州省遵義縣。△以夢得事

白上者。御史中丞裴度。△連州。今ノ四川省筠連

縣。△萬年。長安縣管内。△舅弟。母ノ兄弟ノ子。

△涿 今河北省ニ屬ス。

○潮州韓文公廟碑 △潮州 今ノ廣東省潮安縣。

△百世師 孟子盡心上篇ニ「聖人百世之師也。伯夷、柳下惠是也。」ト。△爲天下法 中庸ニ「君子動而世爲天下道、行而世爲天下法。」ト。△參天地

之化 中庸ニ「可_レ以贊_レ天地之化育、則可_レ以與_レ天地參_レ矣。」ト。△申・呂自嶽降 申伯・呂侯ハ高山ノ神靈ヨリ降誕シタリ。周ノ太公望ノ祖ナリト

イフ。詩經大雅嵩高篇ニ「惟嶽降神。生甫及申。」ト。甫侯ハ即チ呂侯ナリ。嶽ハ四嶽（東嶽岱・南嶽衡・西嶽華・北嶽恆ノ四名山）。△傳説爲列星

傳説ハ殷ノ高宗武丁ヲ相ケ、死シテ星トナリ、傳説星トヨバルトイフ傳説アリ。莊子大宗師篇ニ見ユ。△孟子曰 公孫丑上篇ニ見ユ。△良・平 漢

初ノ張良・陳平。△賁・育 孟賁・夏育、皆古ノ勇者。△儀・秦 張儀・蘇秦。戰國時代ニ各連衡

・合從ヲ説キタル外交家。△不恃力而行 武勇ノカヲ恃_ミトナサズ、毅然トシテ行フ者。△幽則爲

タリト。△不能弭皇甫鍾・李逢吉之謗 皇甫鍾愈ノ直ヲ忌ミ、愈ヲ狂疎ト評シ、袁州ニ移サレシ

トヲ奏シ、宰相李逢吉ハ李紳ヲシテ愈ヲ劾奏セシメタリシコト。△孔子之言 論語陽貨篇ニ出ヅ。

△元祐 哲宗ノ年號（一〇八六―一〇九三）。△朝散郎 宋代文官ノ位ノ一、從七上。△焄蒿悽愴 氣立

上リテ人ヲ感動セシメ、神靈現レテ心ヲ緊張セシムルヲイフ。△元豐 神宗ノ年號（一〇七八―一〇八五）。△昌黎 今河北省ニ屬ス。一説ニ韓ヲ昌黎ノ

人トナシシタメコ、ノ伯ニ封ゼシナリ。△白雲郷 莊子天地篇ニ「乘_レ彼白雲、至_レ於帝郷。」ト。△

手抉雲漢分天章 詩大雅棫樸篇ヲ「俾_レ彼雲漢。爲_レ章于天。」ト。ツノ鄭箋ニ「雲漢之在天、其爲_レ文章、譬猶_レ天子爲_レ法度於天下。」ト。是、韓ノ文章

ガ天ニ得タルヲイフナリ。△天孫 織女ナリ。△咸池 淮南子天文訓ニ「日出_レ於陽谷、浴_レ於咸池。」ト。△扶桑 神木ノ名、日ノ出ヅル所ニアリト。

△昭回光 詩大雅雲漢篇ニ「倬_レ彼雲漢。昭_レ回_レ于

鬼神 禮記樂記ニ「幽則有_レ鬼神。」ト。△貞觀

太宗ノ年號（六二七―六四九）。△開元 玄宗ノ年號（七一三―七四一）。△房 房玄齡、宰相タリ。△杜

杜如晦。房トナラビ稱セラレ、房謀杜斷ノ稱アリ。尙書右僕射ニ陞ル。△姚 姚崇。玄宗ニ仕ヘ

テ兵部尙書トナリ、太子少保ヲ授ケラル。△宋 宋璟。玄宗ニ仕ヘ、尙書右丞相ニ至ル。△八代

後漢・魏・晉・宋・齊・梁・陳・隋。△犯人主之怒 元和十四年、韓ハ憲宗ガ臨臯驛ニ赴キ、佛骨

ヲ迎ヘシヲ諫メ、「論佛骨表」ヲ上リテ潮州刺史ニ貶セラレシコトヲイフ。△奪三軍之帥 元和十五年、兵部侍郎ノ職ニアリテ、鎮州ノ兵亂ヲ治メ、

軍民ヲ諭シ、王廷湊ヲ長レシメシコト。△衡山之雲 貞元二十一年、韓、衡岳廟ニ謁シテ詩アリ。

「須臾靜掃衆峯出。仰見突兀撐_レ青空。」ト。△魃 鱷魚之暴 潮州刺史タリシトキ、民コノ魚ノ害ニ

苦ムト聞キ、「鱷魚文」ヲ作りテ、之ヲ祭リシニ、暴風雨起リ、數日ニシテ溪水盡キ、魚皆他ニ移リ

天_レト。太陽ノ光ガ天ニ回轉スルヲイフ。△李・杜 李白・杜甫。△籍・湜 張籍・皇甫湜。此句

ハ門人ガ到底韓ニ及バザル形容ヲイフ。△倒景 人天上ニアリ、太陽下ヨリ照スナリ。△九疑 山

名、舜ヲ葬リシ所。△英・皇 娥皇・女英、韻字ノ爲ニ姉妹ヲ逆ニ書ク。堯ノ二女、舜ノ二妃。△

祝融 火ノ神、南海ノ神タリ。△海若 海ノ神。△巫陽 ミコノ名、天帝ノ傍ニナル。△犧牲 牛

羊ノ代リニ犧牲トスル犖牛。△雞卜 雞骨ヲ以テトスルナリ。△荔丹 荔枝ナリ、果肉赤ケレバ丹

トイフ。△蕉黃 バナナ。△大荒 天空。大空。○長恨歌 △漢皇 唐ノ玄宗ヲ諱ミテカク稱シタルナリ。△傾國 漢ノ李延年ノ歌ニ「北方有_レ佳人、絕世而獨立。一顧傾_レ人城、再顧傾_レ人國。」ト。

△楊家有女 貴妃ハ楊玄琰ノ女、叔父ノ家ニ養ハル。△一朝選 開元二十四年、武惠妃薨ズ。楊氏

壽王妃ヨリ選バル。△華清池 陝西臨潼縣ノ東南ノ驪山ニアリ。天寶六年、溫泉宮ヲ華清宮ト改名

ス。△金屋云々。漢武故事ニ「若得阿嬌、當以金屋貯之。」ト。△姉妹弟兄云々。姉三人、各韓。號・秦國夫人ニ封セラレ、父ハ太尉齊國公ヲ、母ハ涼國夫人ヲ賜ハリ、叔ノ玄珪ハ光祿卿、兄銛ハ鴻臚卿、錡ハ侍御史、劍ハ名ヲ國忠ト賜ヒ、金吾兵曹參軍トナリ、一門皆榮譽ヲ得タルヲイフ。△遂令云々。當時ノ民歌ニ「男不封侯、女作妃。看女卻爲門上楣。」ト。△麗宮。華清宮ナリ。△漁陽云々。天寶十四年十一月、安祿山范陽ニ叛セルヲイフ。△漁陽。郡名。祿山ニ應ゼリ。今河北省北部ノ薊縣・平谷縣ノ地。△霓裳羽衣曲。河西節度使楊敬述獻ゼシ所ノ曲。△西南行。玄宗宰相楊國忠ヲ召シテ事ヲ計ル。乃チ蜀ニ幸センコトヲイフ。帝然リトナス。時ニ天寶十五年。△西出都門百餘里。馬嵬驛（今陝西興平縣ノ西）ニ至リシトキ、將士飢疲シテ憤怒シ、國忠ヲ誅センコトヲ進言シ、之ヲ殺シ、貴妃ニ死ヲ賜フ。△花鈿。婦人額ニ貼ル飾。舊說非。△劍閣。今四川省ニ同名ノ縣アリ。

大小劍山ノ間ニ棧道アリ、劍閣トイフ。△峨眉四川省内同名ノ縣ノ西南ニアル山、兩山相對スルコト峨眉ノ如キヨリイフ。△回龍馭。至徳二年、廣平王叔・郭子儀長安ヲ回復、年末ニ玄宗還都。△太液。御苑内ノ池ノ名。△芙蓉。蓮。△未央宮名、太液池ノ南ニアリ。△西宮。太極宮。△南苑。興慶宮。△梨園子弟。玄宗音樂ニ通ジ、梨園ニ子弟ヲ集メテ教授セリ。△椒房。皇后居ル所ノ殿名。未央宮ニアリ。漢書ニ見ユ。壁ニ椒ヲ塗リコメテ芳シカラシム。△阿監。女官ノ取締。△鴻都客。一説ニ道士ノ名ナリト。△展轉思。詩經關雎篇ニ「輾轉反側。」集傳ニ「輾者轉之半、轉者輾之周。」ト。△小玉。モト吳王夫差ノ女ノ名。△雙成。西王母ノ侍女童雙成。漢武内傳ニ見ユ。△闌干。涙ノ流レ落ツルサマ。モト橫斜ノ意ニ出ヅ。△昭陽殿。漢ノ後宮ノ一、貴妃生時居リシ所ヲ指ス。△蓬萊。海中ノ仙山ノ名、貴妃死後居ル所ヲ指ス。△長生殿。天寶元年、華清宮内ニ造リシ、

神仙ヲ祀ル殿ノ名。△比翼鳥。爾雅釋地ニ出ヅ。南方ニ棲ム鳥ノ名、牝牡ナラズンバ飛バズト。△連理枝。根下ハ二本ニシテ、幹枝ノアル部分ニ至リテ相合シテ一トナレル樹。

○香山詩名。△趙翼。乾隆ノ詩人。號ハ甌北、江蘇陽湖ノ人。△香山。白居易、晩ニ香山居士ト號ス。△李謫仙。李白ハ賀知章ニ天上ノ謫仙人トヨバレタリ。卷一「李白傳」參照。△傲之。同時ノ詩人元稹ノ字。△漢南主人。漢南ノアル家ノ主人。漢南ハ今ノ湖北ノ地。△傲之序其集。五十卷本ノ序ナリ。今、元氏長慶集卷五十一ニ收ム。△甌北詩話。趙翼作ル所ノ詩話、十卷。詩話トハ、詩人作品等ニツイテ、隨筆體ニ記シタル書ナレド、コノ書ハ李白ヨリ查慎行ニ至ル十一人ニツイテ、人ゴトニ輯メタリ。

○陳情表。△李密。晉初ノ人。幼ニシテ父ヲ失ヒ、母ハ改嫁シ、祖母劉氏ニ養ハル。故ニコノ表アリ。△險覺。ナホ禍兆トイフガ如シ。運ワルキナリ。

△閔凶。凶ハ憂ナリ。宣公十二年ノ左傳ニ「寡君少遭一」不能文。」ト。△晚。晩年。△替功強近之親。服喪ノ制ニテ、期（一年）、功（大功ハ九月、小功ハ五月）ノ喪ニ服スル親族。強近トハ強ヒテ親近トナル意。△氣氣。孤獨ノサマ。△達賈達。△祭。顧榮。△洗馬。官名、太子洗馬。太子外出ノ時ハ先驅ス、故ニ名ヅク。△連慢。連ハ緩ナリ。△僞朝。晉ニ對シテ蜀漢ヲ指ス。密ノ本傳ニ「少仕蜀爲郎。」ト。△二州。梁・益。△結草。宣公十五年ノ左傳ニ見ユル故事。晉ノ魏顆ノ父病シテ、死後ハ妾ヲ他ニ嫁セシメヨトイヒ、危篤ニ際シテハ改メテ殉死セシメヨトイフ。顆、初志ヲ重シテ嫁セシム。後、戰ニ出デ、結バラタル草ニツマヅキコロビタル秦ノ力士ヲ獲タルガ、ソノ晩ノ夢ニテ、妾ノ父ガ恩ヲ報ゼントシテ草ヲ結ビタルヲ知レリ。

○蓼莪。△蓼莪。日ニ生長スルサマ。△匪莪伊蒿。父母ハ子ヲ莪ノ如キ美材タラシメントシテ育テ

タルニ、子ハ蒿ノ如キツマラヌモノニナリタリト
イフナリ。朱子ハ莪ヲ美菜、蒿ヲ賤草ト解ケド、
一説ニハ同ジモノニシテ、初、莪ト稱セラル、時
ハ食フベク、秋高大トナリ、蒿ト稱セラル、時ニ
ハ食フニタヘザルナリト解ク。△哀哀父母 死後
ノ父母ヲイフ。△餅壘 共ニ酒器、餅ハ小、壘ハ
大、子ノ立身セザルハ父ノ恥トナルヲイフナリ。
△入則靡至 家ニ返リテ、歸宅ヲ告グベキ父母ア
ラザルヲイフ。△顧我復我 反覆顧視シテ、暫ク
モオカザルナリ。△腹 懷抱ナリ。

○慈烏夜啼 △吳起 史記ノ傳ニ、起、母ト別レ
シトキ、卿相タラズンバ、衛ニ返ラズト盟フ。會
子ニ仕ヘ、母ノ死ニ歸ラズ。會子起ト絶交ス。△
會參 孔子ノ弟子。孝行ナリシトイフ傳説アリ。
○子産能爲鄭國 △子産 鄭ノ政治家、公孫僑ノ
字。ヨク晉。楚ノ大國ノ間ニ在ツテ、鄭國ヲ存續
セシメタリ。△然明 鬻。△子皮 子産ノ賢ヲ
知ツテ、之ニ大夫ノ職ヲ讓リシ罕虎ノコト。△爲

邑 邑ノ大夫タラシム。爲ハ治ナリ。△少 尹何
ノ年少ナルヲイフ。△田獵 田モ獵ナリ。△敗績
車馬顛覆シテ功績ヲ敗ルナリ。

○賣炭翁 △宮市 宦官ノ宮中ニ於ケル商賣ヲイ
フ。△南山 終南山。長安ノ南ニ在リ。△賤 價
格低キナリ。△黃衣使者 宦官ナリ。△白衫兒
白キ上衣ヲ著タル若者、密偵ナラン。

○捕蛇者説 △永州 今湖南省零陵縣。△黑質而
白章 黑地ニ白紋アルナリ。△藥 藥餌。△大風
癩病。△攣腕 手足ノ伸縮不自由ナル病。△

賦其二 一年ニ兩度稅ヲ徵スルナリ。△莅事者
ノ地方ヲ管轄スル官吏。△更若役 捕蛇ノ役ヲ
改ムルナリ。△生 生計。△頓踣 踏モ仆ナリ。
△苛政猛於虎 禮記曲禮ニ出ヅ。卷一ニ收録。△
觀人風者 民間ノ風俗ヲ觀察スル者。唐代太宗ノ
諱ヲ避ケテ民ヲ人ニ作ル。
○秋聲賦 △歐陽子 脩自ライフ。△浙瀝 風雨
ノ音。△蕭颯 風ノ音。△砢礧 水石ヲ打ツ音ノ

形容。水又ハ波ノ音。△綠縹 縹ハ繁ルナリ。△
葱蘢 郭璞ノ江賦「潛蒼——」。李善ノ注ニ青盛ノ
サマト。△秋刑官也 周禮ニ於テ、秋官ハ刑官、
大司寇ニ當ル。△於行爲金 五行説ニテ金ニ屬ス。
○枕中記 △沈既濟 吳ノ人。官、禮部員外郎ニ
至ル。△開元 唐ノ玄宗ノ年號(七一三—四一)。

△邯鄲 今河北省ノ南部ニ屬ス。△青駒 黑馬。
△田 耕地。△何適之謂 心ニカナフ所アラシヤ。
樂ナキナリ。△青紫 漢ノ丞相・太尉ハ金印紫綬、
御史大史ハ銀印青綬。故ヲ以テ高官ヲ指ス。△清
河 今河北省鉅鹿縣ノ東。△釋褐祕校 始メテ祕
校ニ任官セリ。△渭南 今陝西省華陰縣ノ西、渭
水ノ南ニ位スレバナリ。△土巧 土功ナリ、土木
事業ナリ。△汴州 今河南省開封縣ノ地。△神武
皇帝 玄宗。△吐蕃 今ノ西藏。△瓜沙 瓜州ハ
今甘肅省安西縣ノ東。沙州ハ敦煌縣。△河湟 黃
河・湟水ノ流域。湟水ハ河南省鞏縣ノ西ヲ流ル。
△河西 唐ノ河西節度使ハ涼州(今ノ甘肅省武夷

縣)ヲ治トシ、涼・甘・肅・伊・西・瓜・沙ノ七
州ヲ統ブ。△居延 甘肅省ノ西北境ニアリ。△端
州 今ノ廣東省高要縣。△中令 中書令。△獻替
善キコトヲ勸メ、惡シキコトヲ改メシムルコト。

△啓沃 天子ヲ輔導スルコト。△制獄 宮中ノ獄
ナリ。△府吏 官吏。△中官 宦官。△驪州 今
ノ安南ノ北部。△萬年 今陝西省長安縣ニ入ル。
△荒徼 邊境。徼ハ蠻夷ノ地トノ界ヲ示ス木柵。
△台鉉 ナホ台鼎トイフガ如シ。宰相。△臺閣
內閣。△鴻私 大ナル私恩。△出擁節旌 節度使
トナル。△負乘貽寇 易ノ解卦六三ニ「負ヒテ且
乗ル、寇ノ至ルヲ致スレト。分外ノ高位ニアリテ、
任ニタヘズ、自ラ禍ヲ招クヲイフ。△履薄 薄水
ヲ履ム、危キニラル喻、詩經小雅小旻ニ「如履
薄氷」ト。△位極三事 三公トナリシコト。△鐘
漏並歇 餘年ナキコト。△彌留 病重キコト。書
經顧命篇ニ出ヅ。△成效 成績。△休明 天子ノ
御心。ナホ聖明トイフガ如シ。休ハ美ナリ。△元

輔 元ハ大ナリ。宰相。△藩翰 藩屏ニ同ジ。藩
ハ蔽、翰ハ幹。△雍熙 太平。雍ハ和、熙ハ嬉。
△二紀 二十四年。一紀ハ十二年。△第 邸宅。
△候省 見舞。△鍼石 治療。石ハ石鍼。△無妄
易ノ卦ノ名。イフ「无妄之疾、勿藥有喜。」ト。
意外ノ病ユエ藥ヲ用ヒズシテ平癒セントイフ義。
△觸類 凡テノモノ。△得喪 得失。△文苑英華
一千卷。宋ノ李昉奉勅編。文選ヲツイデ、梁末
以降ノ詩文ヲ輯ム。

○醉翁亭記 △滁 今安徽省滁縣。△琅琊 山名。
△林霏 霏ハ霧、モヤ。△野蔌 野菜。

○石壕吏 △石壕 今河南省陝縣ノ東南ノ地。△
投 投宿。△出門看 出デテ辯解スルナリ。△鄴
今河南臨漳縣ノ西。

○弔古戰場文 △李華 字ハ遐叔。天寶中監察御
史ヲ經テ吏部員外郎トナル。古文ヲ以テ蕭穎士ト
ナラビ稱セラル。集ヲ李遐叔文集トイフ。△齊魏
戰國時代二強國ノ名。△荆韓召募 楚・韓二國

アリトイフ。△宋開府 開府儀同三司宋璟。突厥
ヲ擊退シテ功ヲ立テシ郝靈筌ヲ直ニ賞セズ、翌年
始メテ郎將ヲ授ク。郝慟哭シテ死セリトイフ。△
楊國忠云々 劍南節度使鮮于仲通、劍南留後李宓
ノ敗軍ヲ隱シテ戰功ヲ奏セシコトヲイフ。但シ、
宋ノ洪邁ノ容齋隨筆卷四「李宓伐南詔」ノ條ニハ
高適ノ「李宓南征」贊ノ詩ヲ引イテ後者ヲ否定シ、
敗死セズ、十二年長安ニ復命セシトイヘリ。
○前赤壁賦 △壬戌 宋元豐五年(一〇八二)。△
赤壁 今湖北省黃岡縣城外ニアリ。周瑜ノ曹操ノ
軍ヲ破リシ赤壁ハ今湖北省嘉魚縣東北ナルニ、東
坡ハ之ヲ混同セリ。△明月之詩 詩經陳風月出篇。
△窈窕之章 詩經周南關雎篇。△月明星々 曹操
「短歌行」ノ句。△曹孟德 孟德ハ操ノ字。△夏
口 今湖北省漢口。△武昌 揚子江ヲ隔テ、漢口
ノ對岸、湖北省ニ屬ス。△周瑜 周瑜。字ハ公瑾。
孫策(孫權ノ兄)ヲ佐ケテ江東ヲ平グ。吳人呼ン
デ周郎トイフ。△荊州 今湖北省襄陽縣。△江陵

ノ徵兵。△膺臆 胸中抑鬱甚シキナリ。△耗散
損壞。△戎夏 戎狄ト中華ト。△漠 沙漠。△縉
纈 絹ト綿ト。軍服ヲ指ス。△牧用趙卒 趙ノ名
將李牧、士卒ト甘苦ヲ同ジウシ、大ニ匈奴ヲ破リシ
コト。林胡ハ匈奴ノ別種。△纒狁 匈奴ノ先祖。
△太原 今甘肅省固原縣附近。△朔方 内蒙オル
ドスノ地。△飲至 凱旋兵ヲ饗應スルナリ。△海
渤海。△陰山 綏遠・察哈爾・熱河ニツマク山
脈ノ名。△惜帽 忿恨ノサマ。△守在四夷 昭公
二十三年左傳ニ見ユ。

○己亥歲 △曹松 晚唐ノ作家。字ハ夢徵。△己
亥 僖宗ノ乾符六年(八七九)。△澤國云々 黃巢
江淮ヲ亂シタルヲ指ス。

○折臂翁 △新豐 今陝西省臨潼縣ノ東北新豐
鎮。△憑肩 孫ノ肩ニヨリカ、ル。△貫 本籍。
△天寶大徵兵 天寶十(七五二)・十三年、楊國忠
南詔征伐ノ兵ヲ起セシコトヲイフ。△椒 山椒。
△瘴煙 身體ヲ害スル水蒸氣。△萬人冢 雲南ニ

今湖北省ニ屬ス。△長江 揚子江ノ本名。
○後赤壁賦 △雪堂 東坡ノ黃州ニ築キシ堂。△
臨臯 亭ノ名。△二客 郭遵・古耕道ナリトイフ。
△松江 江蘇省ニ屬ス。モト川ノ名、吳淞江。△
鱸 四腮魚。和名ドンコ。スズキニ非ズ。
○月下獨酌 △三人 月ト李白トツノ影ト。
○天女 △土形 地形、地味。△荒鹽 荒キ潮。
△奈具志 ナゴヤカ。
○以和爲貴 △以和爲貴 論語學而ニ「禮之用、和
爲貴。」禮記儒行篇ニ「禮之以和爲貴。」ト。
△少達者 岡田正之曰ク「事理ニ通ゼズシテ偏倚
比周シ、恩ヲ賣リ、非ヲ助クル意ナラン。是レ朋
黨私黨ノ成立シ來ル所ナリ。」ト。△達于隣里 論
語雍也ニ「毋以與爾鄰里鄉黨乎。」ト。五家ヲ
鄰トシ、二十五家ヲ里トス。△上和下睦 孝經開
宗明誼章ニ「先王有至德要道、以訓天下、民用和
睦、上下亡怨。」ト。△信是義本 論語學而ニ「信
近於義、言可復也。」ト。△明察功過 管子明法

解ニ「亂主不察、臣之功勞、譽衆者則賞之。不審其罪過、毀衆者則罰之。」ト。△賞罰必當 韓非子主道ニ「功當其事、事當其言、則賞、功不當其事、事不當其言、則誅。」ト。△獨斷 韓非子孤憤ニ「今大臣執柄獨斷、上弗知收、是人主不明也。」ト。

○遣隋使 △大禮 十一年ニ冠位十二階ヲ定ム。大德・小德・大仁・小仁・大禮・小禮・大信・小信・大義・小義・大智・小智是ナリ。故ニ、大禮ハ第五階ニ當ル。△蘇因高 小野妹子ノ音譯。

○望不盡山 △神左備而 神々シク。△度日之陰 日光。△伊去波伐加利 いハ接頭語。山ヲ憚リテ行キカヌルナリ。△時自久 時ナラザルナリ。

○梅花歌序 △天平 聖武天皇ノ年號(七二九—四八)。△萃 集ナリ。△帥老 和訓カミノオキナ。ココハ、大伴旅人ヲ指ス。太宰帥タリシユエノ稱。△淑 澄ムナリ。△鏡前之妝 古説ニ、南朝宋ノ武帝ノ女、壽陽公主、含章殿ノ簷下ニ臥セ

從來ノ史書ニ缺ケタルモノヲ書キ記シテ上リタリト傳フル書。△齋部廣成 傳未詳。△書契以來 漢字傳來以來。△舊老 故實ヲ語ル老人。△家牒 家々ニ傳フル記録。△遺 漏ル、ナリ。△蓄憤 年來胸中ニ蓄ヘタル憤、憤トハ公憤、義憤ナリ。

○池亭記 △慶滋保胤 賀茂忠行ノ二男。菅原文時ニ從ツテ學ビ、才學世ノ推稱スルトコロトナリ、

大内記ニ任ゼラレ、近江掾ヲ兼ネタリ。佛教ヲ信ジ、晩ニ剃髮シテ寂心トイヒ、内記入道トイハル。四方ヲ遍歴シテ修行、長徳三年歿ス。△東西二京 平安京内ノ東西ヲイフ。△幽墟 靜寂ナル敗墟ノ意。△幽隱亡命 俗間ヲ離レテ隱居スルコト。

△奔營 榮達ヲハカルナリ。△東閣 一ニ東閣ニ作ル。漢ノ公孫弘宰相トナリ、客ノ居ル所ヲ建テテ、東閣即チ東ニ向ケル小門ヲ開イテ賢人ヲ招キシ故事ニヨリナ、コ、ノ東閣ハ大臣源高明ヲ指ス。

△華堂朱戶 壯麗ナル邸宅。△象外 俗界ノ外。△左轉 左遷。安和二年、高明事ニ坐シテ、太宰

シトキ、ソノ額上ニ梅花落チテ、之ヲ拂ヘドモ去ラザリシコトニヨリ、梅花妝トイフコト起レリトイフ故事ニヨレリト傳フ。△珮後之香 楚辭離騷ニ「綰秋蘭以爲珮。」トアリ。綰トハツグナリ、繩モテツナグナリ。秋蘭ハ香草ノ名。珮ハ佩ト同ジ。帶ノ裝飾ナリ。△傾蓋 車ヲ駐メテカサヲ傾ケテ近ヅキ語ル、親シム形容。葛ノ松ノ頂マデカラミ茂リタル形容ナリ。△岫 巖穴ナリ。山ノ洞穴ナリ。△穀 紗ニ似テ密ナル薄キ織物、コ、ハ霧ヲ喻ヘタルナリ。△蓋天坐地 劉伶ノ酒德頌ニ「幕天席地」トアルニ基ヅケルカ。△促膝 膝ヲ近ヅケテ坐スルナリ。△飛觴 觴ハ酒盃ナリ。盃ヲ取リカハスナリ。△忘言一室之裏 蘭亭記ニ「悟言一室之内」トアルニヨル。忘言トハ打解ケテ語ルナリ。△開衿 胸襟ヲ開ク。△煙霞 山水ヲイフ。△翰苑 筆ヲ執リテ、詩歌ヲ作ルナリ。

○古語拾遺序 △古語拾遺 平城天皇ノ大同二年天皇ノ下問ニ應ジテ、廣成ガ家傳ノ故事ニシテ、權帥ニ左遷セララル。△屋舍有火 同年失火ノコトヲイフ。△主人歸 天祿三年高明歸京。△天之亡西京云々 史記項羽本紀ノ「天之亡我、非戰之罪。」ニヨル。△四垣 四周ノ垣。△蕭相國 漢ノ高祖ノ丞相蕭何、相國トナリ、田宅ヲ買フニ必ズ僻窮ノ處ヲ選ンデ家ヲ建テシ故事。△仲長統 後漢ノ學者。居ヲ清曠ノ地ニトセリ。△清曠 靜ニシテ廣々シタルコト。△著妻子 妻子ヲ住ハセタルナリ。△屋舍十之四 白居易ノ地上篇序ノ文ヲ借リテ作レルカ。△北戸之竹 北窓ノ竹。白居易、思竹窓「蕭蕭北窓竹。」△南簷之日 白居易、香爐峯下新卜山居草堂詩「南簷納日冬天暖、北戸迎風夏月涼。」△蝸安其舍 三國志魏志引ク所ノ魏略ノ文ニ、焦先・楊沛ノ二人圓舍ヲ作ル、形蝸牛ノ如キヲ以テ、蝸牛廬トイヘルヲイヒ、之ニ本ヅイテ、後人ハ小宅ヲカクヨブ。△虱藥其縫 晉書阮籍傳ニ、群蝨禪ニアルヤ、深縫(深キ縫目)ニ逃レ、壞絮(古綿)ニ匿レ、自ラ以テ吉宅トナ

シトキ、ソノ額上ニ梅花落チテ、之ヲ拂ヘドモ去ラザリシコトニヨリ、梅花妝トイフコト起レリトイフ故事ニヨレリト傳フ。△珮後之香 楚辭離騷ニ「綰秋蘭以爲珮。」トアリ。綰トハツグナリ、繩モテツナグナリ。秋蘭ハ香草ノ名。珮ハ佩ト同ジ。帶ノ裝飾ナリ。△傾蓋 車ヲ駐メテカサヲ傾ケテ近ヅキ語ル、親シム形容。葛ノ松ノ頂マデカラミ茂リタル形容ナリ。△岫 巖穴ナリ。山ノ洞穴ナリ。△穀 紗ニ似テ密ナル薄キ織物、コ、ハ霧ヲ喻ヘタルナリ。△蓋天坐地 劉伶ノ酒德頌ニ「幕天席地」トアルニ基ヅケルカ。△促膝 膝ヲ近ヅケテ坐スルナリ。△飛觴 觴ハ酒盃ナリ。盃ヲ取リカハスナリ。△忘言一室之裏 蘭亭記ニ「悟言一室之内」トアルニヨル。忘言トハ打解ケテ語ルナリ。△開衿 胸襟ヲ開ク。△煙霞 山水ヲイフ。△翰苑 筆ヲ執リテ、詩歌ヲ作ルナリ。

スノ語アリ。△鷓住小枝 莊子逍遙遊篇ノ斥鷃(八二頁) 鷓鴣(八三頁) ニ本ヅク。△鄧林 淮南子墜形訓篇及ビンノ注ニ、夸父トイフ神獸、河渭ノ水ヲ飲ンデ足ラズ、西海ニ飲マントシテ、途中ニ渴死セシトキ、棄テシ策(杖)ガ木トナリテ、鄧林トイフ大林ニナリシコトヲ記セリ。列子湯問篇ニハ日影ヲ追ハント欲シテ渴シタリトナス。△蛙在曲井 莊子秋水篇(八六頁)ノ語ニ本ヅク。△柱下 拾芥抄、官位唐名部ニ「内記、今世號柱下」ト。保胤大内記タル故ニイフ。△天之工 書經阜陶謨ニ「天工人其代之。」ト。注ニ人ガ天ニ代リテ官ヲ理ムルナリト説ク。△丘之禱 論語述而篇ノ語。コ、ハ保胤自ラ佛道ニ歸依シテ禱ルヲイフ。△風鵬 逍遙遊篇ニ本ヅク。△霧豹 害ヲ避ケテ山林ニ隠ル、コト。列女傳賢明篇ニ見ユル南山ノ玄豹、霧ニ隠レテ七日食ハザルノ故事ニ本ヅケル、南朝ノ謝朓ノ詩ノ句「雖無玄豹姿、終隱南山霧」ニ採リシカ。△避言避色 論語憲問

篇中ノ語。△佛那 佛陀。△七賢 竹林ノ七賢ヲイフ。嵇康・阮籍・山濤・向秀・劉伶・阮咸・王戎。△三樂 孔子家語六本篇ニ、孔子、萬物ノ長タル人ニ生レ、尊キ男ニ生レ、壽ヲ保チ得タルヲ三樂トナシ、コト見ユ。△以淡交 莊子山木篇ニ「君子之交淡如水。」ト。△叩舷 文選、江賦ノ語。△鼓棹 文選、王儉ノ褚淵碑文ノ語。△應和 村上天皇ノ年號(九六一—三)。△豐屋 易、豐ノ卦ニ出ヅ。△峻宇 書經五子之歌ノ語。△節山 畫稅 論語公冶長篇ニ「山節藻稅。」ト。彫刻畫飾スルヲイフ。奢侈ノ形容。△老蠶 白樂天、有感詩ニ「繭成蠶老死。」ト。△積善 易ノ文言ノ語。△本朝文粹 十四卷。藤原明衡ガ、書名ヲ唐文粹ニ採リ、内容ヲ文選ニ學ビタル、嵯峨・後一條二天皇間十七代二百餘年間ノ詩文ヲ編輯セシ書。○菊河驛 △菊河 今靜岡縣榛原郡金谷町ノ大字。△宗行 本姓藤原氏。權中納言。承久ノ役ノ責任ヲ以テ鎌倉ニ送ラル、途中、燒津ニテ殺サル。

漢文
三

APPROVED BY MINISTRY
OF EDUCATION
(DATE Dec. 1, 1948)

昭和二十三年六月二十五日 印刷
昭和二十三年六月二十九日 發行

發行所

東京都千代田区神田岩本町三番地
中等學校教科書株式會社

著作權所有者
著作兼發行者
東京都千代田区神田岩本町三番地
中等學校教科書株式會社
代表者 阿部眞之助

印刷者
東京都千代田区神田保町三ノ一七番地
株式會社 中教出版印刷所活版部
代表者 仙葉元太郎

35
H
S
R

J. Okano

¥21.00